

# 2012年度鳴門市人権地域フォーラム

## テーマ 「ひとつと」から「わがこと」へ

～自己をみつめ、語り、人と人がつながる人権学習～

■と き 2012年8月2日(木)13:30～16:30

■ところ 鳴門地域地場産業振興センター

コーディネーター A(藍住町立藍住中学校教諭)

パネリスト B(愛媛県愛南町解放未来塾運営委員)

C(止揚の会事務局)

D(桐朋学園芸術短期大学2年)

### 《コーディネーター A》

皆さん、こんにちは。後ろの方、マイクが聞こえますか？聞こえたら(手真似をしながら)○をしてください。聞こえますか？聞こえますね。

(マイクの調子を確認した上で、もう一度仕切り直して)皆さん、こんにちは。(会場から元気に「こんにちは!」)パネリストの紹介があった瞬間、「何が始まるんだろう」(パネリストのDさんの金髪の頭を意識しながら、語り始めるコーディネーターの言葉に会場から明るい笑いが起こる)と思われた方もおられると思います。私も、昼、思いました。驚きと感動があります。10年後の大スターが来ています。後で歌を歌ってくれると思います。彼女はミュージカルをやっています。(ニコニコうれしそうに)非常に違和感がありますが、彼女には自然の姿です。私もだんだん慣れてきましたけど…。(パネリストの言葉にDさんを初め、会場から再度明るい笑いが溢れる)

私は7年前に北島中学校に赴任しました。その時、彼女は2年生でした。北島に赴任する前、私は3年間学校現場を離れていました。北島中学校で子どもたちと関わる中で、「中学生ってこんなに力があるんだな」と、当時本当に思ったんですね。

今日の、このフォーラムのテーマは『ひとつと』から『わがこと』へです。(しみじみと)当時の北島中学校の、2年生の子どもたちの自分の生活を語る姿に、その語る生徒自身の言葉が自分を癒し、家族を癒し、仲間を癒し、人権学習が「ひとつと」だったのが「よろこび」になっていきました。感謝とよろこびの中に生きる子どもたちの姿がそこにありました。

今日も、小学生、中学生、高校生が集まってくれています。自分の言葉で自分のことを安心して語り合える関係が、その教室や地域社会がそこに生まれたら、いじめの問題や、今もいっぱい課題がありますが、そんな世界が嘘のように変わるんです。自分というものが、自分の周りの人たちが、本当に大切に思える。そんな人間の絆をつくるために、この学習があるんだと思います。私は、北島中学校に6年間籍を置かせてもらったんですけど、毎年『生きる絆』という実践記録をまとめてきました。(力強く)まさに、絆をつくっていく取り組みでした。

最初に、非常に違和感があるんですけど、Dさんにしゃべってもらいます。実は、教師をしていますと、子どもたちへ届けたいものがいっぱいあるんですね。この子らはすごいと思ったのが、中学2年の3学期に山田洋次監督の映画作品、夜間中学校を舞台にした『学校』というだいぶ前の映画です。皆さんの中にも観られたことのない方が多いと思いますが、そこには学校生活をまったく体験していない、字が書けなかった、学ぶ世界と全く縁のなかった人が、必死に学ぶ姿が映画になりました。この映画をこの子どもたちに観せたい。この子どもたちと、この映画を通して学び合いたいと思いました。

2時間を超える映画ですが、その映像をじっと食い入るように観る子どもたちの姿がまぶしかったです。

感想に子どもたちが一生懸命自分のことを書くんです。驚きました。その感動を持って2年生最後の語り合いの学習になります。その時の場面は、7年前ですが、昨日のこつのようによみがえります。この、2年生最後の語り合いの授業は午後だったんですが、その日、一つのクラスで実施した午前中の道徳授業は、いっぱい涙が出たんですけど、本当に昨日のこつのようによみがえります。語り合えることがよろこびになっていきます。

そして、Dさんは、その学びを通して、3年生になった時に、「語り合いの学習からつかんだもの」という人権作文を書きました。その人権作文が、板野郡の意見発表で最優秀になりました。会場は松茂町の役場の3階の大きいホールでした。そこで意見発表をしたんですね。会場にお母さんが来ておられました。そして、徳島県の意見発表でも、最優秀になりました。その折には、お母さんとお婆さんが、文化の森の会場に来ておられました。

彼女が意見発表をしたことによって、彼女の家族がどんなに幸せになっていったか。そのことを強く思いました。それは、英語の文章にも訳されて、(内容をDさんに問いかけ、「My Human Rights Class」(マイ ヒューマン ライツ クラス)…意味は、私の人権学習」とDさんから小声で言葉が返る)「マイ ヒューマン ライツ クラス」、「私の人権学習」という題だそうです。その意見発表は、県の最優秀、第1位になって、2007年、東京で開催された『高円宮杯第59回全日本中学校英語弁論大会』で発表されるようになります。それは、彼女だけのよろこびではなくて、彼女の家族だけのよろこびではなくて、その当時の教員、子どもたちの本当に生きる力になっていきました。

最初にDさんに話をしてもらいます。(ニコニコしながら)かなり持ち上げましたので期待してください。多分すべらんと思います。(会場から起こる明るい笑いの中で)はい、それではみんなで拍手をしてください。(拍手)

## 《パネリスト D》

(ニコニコと元気よく)こんにちは。(会場より「こんにちは!」)だいぶ持ち上げられましたけど、話を聞いてください。すみません、座って失礼します。今、紹介に預かったんですけど、私が中学校2年生の時に、A先生が北島中学校に来られて、そこから、A先生と「語り合いの学習」を通して、今までつながる関係がつかれているなと思います。

今、私は東京に住んでいて芸術の勉強をしています。(笑顔の中にどうしようという迷いを見せながら)結構、A先生に私の話の大筋を話されちゃったんですけど…。

### 語り合いの学習の始まりの頃

A先生が北島中学校に来て、最初の人権学習の時に、みんなが体育館に集められて先生の話の話を聞きました。…(少し考えながら)その時は、「お互いに自分のことをみんなの前で、自分のつらかったり、自分が嫌だなんていうこととか、…うーん…。自分が悲しかった出来事とかを人前に出て話せば、みんながみんなを信頼し合える関係になっていくんじゃないか…」と言われました。

(一呼吸置きながら)聞いていた私たちは、「みんなが自分のことを話すってどういうことなんだろう」って最初思ったんですね。でも、「語らなければ何も始まらない」という言葉を聞いて、自分のことをみんなに話した上で、「何がみんなの中で変わるんだろう」とか、「自分のことをどう受け止めるんだろう」とか、そんなふうに考えていると、「別に話さなくてもいいんじゃないか」とか、そんなことをすごく思ったんですね。私の周りでも、「自分のことを話しても、そんなに人間関係上手くないかないでしょう」(少しためらいながら)みたいな感じで、すごくみんなが最初は乗り気ではなかったんですね。

それでも、A先生の熱い言葉で動かされて、語り合いの学習が始まっていったんですけど、私は、その毎回の語り合いの学習の中で、やっぱり、先生が生徒を促して、「発表してみようか」とか声をかければ、み

んな発表はするんですけど、発表用に作ってきた自分の話をしたりだとか、手にメモを書いて、(手を見る仕草をしながら)それを見ながらだったりとか。そんなことを見てしまって、「こんなので大丈夫なのかな。何が変わるんだろう」というふうに思っていました。

### 一人の友だちの語りから変わっていった語り合いの学習

ある日、私の友だちの中の1人が自分の家族の話をしたんです。(言葉を噛みしめるように、笑顔でしっかり前を向いて)その子のお母さんは、まだ小さいときに交通事故に遭って、お母さんは記憶喪失になってしまって、息子である自分のことを最初誰か全然覚えてなくてすごくつらかったっていう話を、みんなの前でしてくれたんです。

その子話を聞いて、(精一杯の思いを込めて)すごくつらいんだろうに、私たちにも、同級生の大勢の前で、どれだけの勇気を振り絞って、話そうというふうに決心してくれたんだろうというその思い。その語っている時の口調やまなざし。恐る恐る語っていたんですけど、その姿を見るだけで、なんだか、「私に話してくれるんだ」というふうに、すごく心がパッと開いて、これでいいんだというふうに思いました。

そこから、どんどん他の子たちも自らを発表するようになっていって、自分の家族のこととか、自分がいじめられていたこととか、やっぱり、そういうつらいことを話すのはとてもエネルギーがいることだったと思います。でも、それを話すと、自分に自信が湧いて、ありのままの自分を話さなければ、自分を認められていないというふうに思います。ありのままを話すと、聞いている人も嘘がないので純粋に受け止められるというか、やっぱり、その姿に心打たれていくと思うんですね。(照れくさそうに)話の筋は考えてきたんですけど、なんだか脱線してしまいました…。

### 小学校の頃の人権学習で感じたこと

(ニコニコと)やっぱり、タイトルにもあるんですけど、「ひとごと」から「わがこと」へというのは、本当立派と言いますか。小学校の時に、人権学習はしたんですけど、やっぱりその時の勉強の内容っていうのは、「部落差別はダメだ」とか、「人種差別はダメだ」とか。…その人権学習の時間に…、私は部落差別があるとか、人種差別があるっていうのもまったく知らなくて、その授業で、先生からそういう差別があるっていうのを教わったんですね。

その「差別がいけない」ということも同時に教えられました。でも、それは、小学生なので純粋なので、(元気よく)教えられたことはすんなり「ああ、いけないことなんだ」「差別はいけないんだ」と思って、それに反対するような自分もまだ形成されていなかったし、やっぱり「差別はいけない」という概念みたいなものを教えられたっていうイメージがあります。

そこで部落差別の話とか読んで、感想とか話し合ったりしていたんですけど、やっぱり自分の身の回りに部落の友だちとかいなかったの、やっぱり実感がわかかなかったというか、ピンと来なくて、「どういうことなんだろう」と思って、それでも、差別はいけないことだから…、やっぱり自分の中でうまく取り込めていないまま、感想を書いたり意見を発表したりというふうにしていました。

### この同級生なら私の話を聞いてくれる

中学校になって、A先生と一緒に「語り合いの学習」をして、それが「ひとごと」だったんだということに気づきました。やっぱり、身近な所から、自分の近くにいる友だちが話をしてくれると、やっぱり「ひとごと」だと思えないというか。友だちって言っても、最初は他人だった友だちとか、その他人事の、他人の話を聞いて、…やっぱり、(力強く)他人の話を聞いても、その話が嘘ばかりだったり、「差別はいけない」とか「みんなで良くしていこう」とかいうふうに話を聞いても、やっぱりそれが本音ではなかったりすることがあるので、やっぱり(きっぱりと)「他人事」で終わっていました。私は…。

でも、この「語り合い」では、嘘のない本音や、嘘のない自分の生の声を聞けたので、そこに嘘がなかったから、私はその友だちを受け入れようと思ったし、それでみんなも変わっていきました。(生き生きと)やっぱり、語る時には、1人の子が発表している時に、みんなが身体をその子の方に向けて一生懸命聞いているんですね。その姿を見た時、この同級生たちなら私の話を聞いてくれるというふうに思いました。

### **みんなに話したいと思えた韓国人の祖父のこと**

それで、その『学校』という映画を観た時に、…文字を、識字を、習っている学校の中に韓国人の人が出てきたんですね。それを観て感想を書きました。私のおじいちゃんは韓国人で、私は4分の1、韓国人が入っています。(しみじみと)ということ、私は小学校の時に親から聞かされたんですけど、その時に、「あんまり人に言われんよ」とか、また、「韓国と日本の植民地の昔の問題とか、まだ日本には息づいているから、あんまり人に言われんよ」というふうに親から言われました。で、私は小学校の時にそれを知ってからずっと言わないようにしてきました。

でも、この映画を観て、韓国人のおモニが出てきて、ハッとして、「私のおじいちゃんもこんな人だったのかな」「こんなふうに日本で生きてきたのかな」というふうに思ったので、それをそのまま感想文に書きました。それを讀んだA先生が、「次の語り合いの学習でこのことを発表してみんか」というふうに声をかけてくれました。

その時、やっぱり戸惑いはありました。(懸命に言葉を捜しながら)自分の中で、考えて…、でも、その前の語り合いの時に、みんながありのままの自分を語っていたので、ちょっと戸惑いはあったけど、そんなみんなを思い出して、「大丈夫だ」と思って、「みんなに話したい」というふうに思いました。

で、その時に親に、「学校でみんなにこのことを話してもいい？」っていうふうに相談したら、「昔は植民地支配とか、確かに韓国と日本は仲が悪かったけど、今、これからは、あんたらが、未来を創っていくんやけん、どんどん良くしていっていいけん、誇りをもって話し。」と両親が言ってくれました。

(生き生きと力強く)「これで大丈夫だ」というふうに、「絶対いける」と思いました。それで、中学2年の時に同級生に伝えたいと思って、こういうふうにマイクを持って話していきました。そしたら、みんな私の話を真剣に聞いてくれて、私が話し終わった後も、私の友だちが進んでマイクを持って、私の話を聞いた感想とか、みんなの意見をどんどん言ってくれて、(ニコニコと元気よく)そういうふうにつなげてくれる友だちがいるっていうのは、すごい安心しました。

### **真剣に自分のことが話せる語り合いをもっとカジュアルに**

なんか、モヤモヤしていたものがパーッとなくなって、やっぱり自分に自信も持てたし、友だちや周りのみんなのことも、もっと信用していいんだというふうに、すごい、それまで悩んでいたことがパッとなくなって、もっともっとみんなのことを知りたいって思ったし、私のことも知ってほしいっていうふうに思いました。やっぱり、ありのままの話をしないと、人は「ひとごと」で終わってしまうっていうふうに思いました。真剣に自分の話をすれば、相手も真剣に受け止めてくれるというふうに気づけました。

なので、それは、やっぱり部落差別とかいろんな差別が世の中にはありますけど、それを勉強する前に、身近な語り合いの学習っていうのを経験できて、これが根底にあって、世界で差別に悩んでいる人の声を、「わがこと」として受け止めることができると思います。

私は、こういう会だから、「ひとごと」ではなくて自分のことを発表して、こういう会の時だけやろうとかでなくて、日常生活の中から、こういうふうな語り合いがもっとカジュアルにみんなの中に浸透していけばいいなあっていうふうに思います。(コーディネーターをニコニコしながら振り返り)そろそろ時間ですか？次にマイクを渡したいと思います。ありがとうございました。(拍手)

## 《コーディネーター A》

(ニコニコとしてうれしそうに)いつしか、出会った子どもたちが生きがいになっていきます。生きる希望になっていきました。「こんなに幸せな人生はないな」ということを子どもたちを通して思いました。

(しみじみと)私は、今年4月に藍住中学校に異動しました。今日、前の席に藍住中学校の子どもたちが座ってくれています。同じ思いです。29年前に私は藍住中学校に赴任して、4年間勤務しました。その時に教えた子がいい年になりましたけど、今日、ここに子どもを連れて来てくれています。やっぱりうれしいし、力が湧きます。生きがいです。生きる希望です。

(思いを切り替えるように)愛媛県愛南町に解放未来塾という取り組みがあります。その解放未来塾の初代塾長のYさんが、ここで語ったことがあります。Bさんはそのお母さんです。地区の子どもたちに生き抜く力をつけていく、夢を託す、そんな営みが各地であります。まだまだ厳しい差別の現実があります。その現実を見事にけちらしていく。きちっと克服していく。そんな子どもたちを育てていく営みがあります。そんな解放未来塾の運営委員として頑張っておいでるBさんにお話をさせていただきます。拍手をお願いします。(拍手)

## 《パネリスト B》

(立ち上がり、緊張した表情で)こんにちは。(会場から「こんにちは」)座って失礼します。私は不慣れなものですから、書いたものをほぼ読ませていただきます。

### 若い頃持ち続けていた重たいもの

(椅子に座り、原稿に目を落としながらはっきりした口調で力強く語り始める)私は、愛媛の最南端にあり、ます愛南町という所からやってまいりました。Bといます。よろしくをお願いします。

私は 同和地区に生まれました。今もそこで生活しています。ご存知の方もおられると思いますが、愛南町には解放未来塾という解放子ども会があります。そこで私も一緒に活動しています。私が同和問題学習に真剣に向き合おうとしたのは、娘が小学校に入ってからです。親としての私たちの年代は、学校で同和問題学習をきちんと習っていません。ですから、曖昧なまま生きてきました。そのせいか、自分のことをどこか卑下していたように思います。だから若い頃は、自分自身を単純に世間に認めてもらえそうなことをしてきました。

例えば、生花を習って資格を取ったり、お茶や編み物など何か自信の持てそうなことをしました。けれど、そういうもので埋められるものではありませんでした。当然ですよ。そういうことでは 心の中の隅っこでもやもやした重たいものは軽くはなりません。ずっと心の奥底に抱えていたように思います。けれど、このままではいけない、娘にはこういう思いをさせてはならないと思ってはいました。けれど、「寝た子を起こすな」的な、下向きな考えの方が勝っていました。

### 保護者会に参加するようになって

地区内の隣保館で開催される保護者会に参加するようになって、やっぱり我が子にはきちんと教えないといけないという考えが変わっていきました。子どもたちに正しく伝えたい。マイナスイメージからスタートさせたくない思いから、何とかして親の口から話したい！それには、まず自分たちが勉強しなくてはと、学習会や講演会に積極的に参加して行きました。そうして学習を深めていきました。

保護者会に参加するようになって3年くらい経った頃です。娘が通う小学校で、保護者や地域の方の参加する人権学習会があり、その年の学習会では、人権に関する授業参観と、その後に児童抜きの人権だけの人権問題学習会があり、私たちの保護者会のこと、つまり私たちの地区名を出そうという計画でした。

学校の人権教育主任が、地区内での保護者の活動の様子や親の思いを伝えようというものでした。その時

話す原稿は、事前に聞いていましたから、みんな納得して、先生にお任せしますと安心していました。いつも通り人権学習に残ってくださる人は少ないです。見渡せば、その中で地区の保護者は、私一人でした。(切々と)いざ、先生がその原稿を話しはじめたら、私はもういたたまれなくて、もうすぐ地区名が告げられると思うだけで体が震えて涙が止まらなくなってきました。あれほど大丈夫と思っていたのに！なぜか、一人針のむしろに座らされているような気持ちでした。

保護者会の中で事前に聞いた報告では、何の心配もなかったのに、学校で聞く時には震えがとまりません。保護者会という場所がいかにか居心地の良い場所であったのか。何もかもわかってくれている人たちの集まりであり、あったかい場所なんだとわかりました。結局その時は、先生の口から地区名は告げられませんでした。内心ほっとした自分がいましたし、まだまだ勉強不足かなと感じました。私たち保護者会には、子どもたちが通っている小学校、中学校、高校の先生も参加してきます。

その中に、ずっと熱心に関わってくださっている小学校のある先生に、私自身のことを話してみませんかと言われました。すごく勇気がいりました。けれど、この保護者会の雰囲気がとても温かく居心地のいい場所で、私もなんとか応えたいと思うと共に、私の心の中にある壁を一つ乗り越えたいと強く思いました。

しかし、いざ原稿を書き始めても、なかなかまとまらず正直きつかったです。この数年、学習してきた私にとって いかにか自分の中に差別心があったのか！つまらないことに囚われていたのかが よくわかりました。知られたくない部分を さらけ出すような気持ちでした。

### **「我が子のために」の思いから始めた同和問題学習**

同和問題学習を始めてからは、少しは私も成長してきているかなと思っていましたが、原稿を書いていくうちに、涙が止まらなくてしんどい作業でした。情けなかったです。

(力強く)同和問題学習を始めたきっかけは、「我が子のために」という思いが強かったのですが、学習を始めてからは、私自身のためだということに気がついてきました。学習が深まってくるたびに自分自身の心が軽くなってくるのを感じてきました。大勢の人の前で、しかも一番知られたくない部分をさらけ出すことなんて、それまでの私にはありえなかったことです。そういうチャンスをもたらしたことは、私にとって大きなステップになったと思います。

そして、我が子に伝える時がやってきました。できることなら小学生の6年生で歴史の勉強に入る前に我が子に伝えて、「わがこと」として受け止められる状態になってから、学習してもらいたいと考えました。保護者会においても、みんなの希望はそんな状態になって欲しいということでした。

しかし、各家庭が足並み揃えて伝えられたわけではなく、どうしても伝えられないという母親もいました。それに、伝えたとしても、子どもたちはそのことを、一人で受け止めなければならない。私たち保護者のように相談できる仲間をつくっていないと孤立してしまうことになる。子どもたちを孤立させるような状態を絶対に作ってはいけないという思いの中から、子どもたち同士がつながり、それを支える保護者や指導者がいて、安心して活動の出来る、解放子ども会を立ち上げようと自然の流れのようにみんなの気持ちが決まりました。

### **夢であった「解放未来塾」の誕生**

そして、長年の夢であった解放子ども会が生まれました。名称は子どもたちの提案で、解放未来塾という名称に決定しました。解放子ども会の開校式は盛大に行われました。子どもたちが通っている小学校、中学校、高校の校長をはじめ先生方そして保護者ら多数参加していただきました。解放未来塾の誕生を多くの人に知って欲しいという思いと、子どもたちには、たくさん大人のたちが関わっているということ。たくさん大人の大人が見守っているということ。そして、同和問題学習の必要性をみんな確認してスタートしたかったのです。その模様はDVDにとってあり、たまにはそれを見て、あの時の感激を思い出しています。

その時小学校5年生で最年少だったKさんが、今日ここに参加していますので、あとで少し語ってもらいたいと思います。現在は、未来塾の最高学年の高校3年生で…。しかも、現在の未来塾塾長でもあります。私たち指導者も、最初は熱い想いはあっても、「何から始めよう」と戸惑うことばかりでした。しかし、子どもたちと一緒に同和問題学習を始めて、一番の成果は、たくさんの方々を知り合うことができたことです。そうした方々との繋がりがどんどん広がっていきました。最初、香川県の大島青松園に行きました。そこへ行く前に、たまたまこの年、松山で『全国高校奨学生集会』が行われるということで、短時間でしたが参加することができました。

子ども会を立ち上げたものの、塾生たちは、「これから何が始まるんだろう」「私たちだけがなぜこんな活動をする必要があるんだろう」という不安の中の参加でした。しかし、会場の中では、自分たちと同じ立場で、同じ仲間がこんなにたくさんいて、真剣に討論している姿を見て、一気に不安も吹き飛びました。(生き生きと)それどころか、塾生2人がいきなり手を挙げ、しかも堂々と自分の思いを、自分の言葉でしっかりと発言した時は、私たち大人たちもびっくりしました。初めて参加した場で、そんな行動をするとは夢にも思いませんでしたから。

そして、次の訪問先での大島青松園でのハンセン病元患者さんとの交流会は、問題は違えど差別されてきた現実を本人から聞くことで、差別された経験はないけれど、差別の厳しさを想像することはできたと思います。

私自身、ハンセン病のことを何も知らず、関心も持たずにいたことを、改めてこれが差別なんだと知りました。自分の問題だけではなくほかの人権問題にも関心を持たなくてはいけないと思いました。共通することがあるのですから…。

(しみじみと)私たちの地区は、子どもたちが通う中学校の校舎の窓からは、真正面に見えるところに在ります。我が子の同級生が教室から指をさして、「あそこが同和地区なんやろ」とクラスの中でこそそそとと言う言葉に何も言えなかったこと。また、授業中、同和問題学習をしていて「差別はいけないと思います」と、まるで他人事のように言っている自分が嫌だったと、娘は私に話してくれたことがありました。それは娘だけが感じたことではなく、ほかの塾生もそういう経験をしてきたようです。

学習していくうちに、未来塾で学習していても学校では何も言えない自分ももどかしくなるのでしょうか。いつしか子どもたちも、私たち保護者も、自然に湧き出た思いを何かの形で地区外の人たちに伝えていこうと思うようになりました。

私たちの愛南町にも「愛南町人権ふおーらむ」という、今日のこの会のような大会があります。保護者会の活動から未来塾立ち上げ、以降もずっと関わっている先生が、その会場で私たちの想いを代弁してくださいました。「この愛南町には、同和問題をはじめとして、人権問題を真剣に学習している子ども会があります。それは、下長野の解放未来塾です。」と、はっきりと教えてくださいました。そのことは、子どもたちも私たち大人にとってもとても大きなよろこびでした。

平成18年度(2006年)、初めてこの「鳴門市地域人権フォーラム」に参加させてもらった塾生がいます。彼女は中学生でしたが、この会場の一番前の席から振り返って、会場の皆さんに「先生が『愛南町人権ふおーらむ』で言ってくれたことで、見えない差別が見える差別になりました」と、堂々と語る姿は今もはっきりと覚えています。

### **娘のクラス1年8組LHR「しゃべり場」の実現**

解放未来塾がスタートした年は、娘が、高校1年生でした。その1年生の3学期のLHRで立場宣言をしました。立場宣言をするにあたっては、町のイベントや学校の先生方の連携等がうまく合致し、とてもすばらしい環境があったからこそ実現したと私は思っています。

それは、ここに居られるA先生が関わってくださっている、南宇和高校での全校生徒参加の人権集会があ

って、その次の日には、愛南町人権ふぉーらむがあり、そして、その次の日には南宇和高校でLHRがありと、一連の行事がありました。

愛南町人権ふぉーらむが終わった直後、会場に来られていた担任の先生に、私の娘は「明日のLHRにしたいことがあるので時間をください」とお願いをしました。中学生の時、いつかクラスみんなに自分のことを話したいと思ってはいたけれど、その時にはまだ言えなかったと後から話してくれました。今のこのクラスみんななら話してみたいと考えていたようです。その機会がきたと思い、思い切って先生に相談したようです。

南宇和高校にも熱心に関わってくださっている先生がおられます。それで、担任の先生は同和推進主任に連絡をして、その一部始終を録画していただきました。そのお陰で私たちも内容を見ることができました。教室を円陣にしてみんなの顔が見える状況で、先生とか生徒は関係なく通じ合えるような温かい場でした。次々と話が尽きなくて、休み時間、給食の時間に食い込んでしまうほどでした。

その内容は、娘の立場宣言からのスタートでした。「愛南町には、たった1ヶ所だけ被差別部落と言われているところがあります。私はそこで活動している解放未来塾という子ども会の塾長をしています。そこは、同和問題をはじめとする人権問題学習をしています。」と切り出して、「みんなの家庭では、同和問題について両親や家族がどんな話をしているのか知りたいです」とみんなに問いかけました。

まず、娘と特に親しくしている友人が口火を切ってくれました。それをきっかけに少しずつ手が挙がりました。ある生徒は、家族が、同和地区の人に対して差別的な会話をしているということを涙ながらに話してくれました。辛かったと思います。いざ口にすると、やはり家族に対して悪いという思いと、やっぱりいけないことだから話さなくてはこの思いが交差していたのだと思います。涙をこぼしながら話してくれました。同和問題だけではなく、兄弟に障がいのある生徒は、小学生や中学生の時は友だちに言えたのに、高校に入ってから、いつか話したいと思いながらどうしても言えなかったこと。ハンカチで顔をおおい涙をおさえながら、そのことを隠している自分が嫌だったけど、みんなが話しているのをみて、今だったら言えると思ひ話したこと。みんな一生懸命自分のことを話していました。

やがて、担任の先生も語りはじめました。前任校でのこと。ある時、アンケートを取った際、受け持ちの生徒の中に同和地区の女子がいて、「将来、部落出身だとわかって差別されたらどうしよう。不安でたまらないという生徒に対して自分は、何もしてあげられなかった。守ってあげないといけなかったのに、何もできなかった自分が悔やまれてならない」と。また先生も声を詰まらせ、涙をこぼしながら話している姿がありました。

この1年8組LHRは、娘だけではなく、一人一人抱えている問題は違うけれど、娘が話すことで、思い切って話したことでわかってくれる友だちがいる。支えてくれる仲間がいるんだという安心感、そのままの自分を受け止めてくれる場所なんだという喜びを感じることができた時間になったと思いました。彼等が1年間いっしょに過ごしてきた仲間たちというだけじゃない、それまでの関わり合いがこの時間をつくったのかなと思います。

### **未来塾の成長…子ども同士がモデルになり合える仲間**

未来塾には、地区の子どもたちだけではなく地区外からも参加している生徒もいます。先生の呼びかけや、塾生の同級生、あのLHRで語りあった娘のクラスメイト3人も時間の許すかぎり参加していました。その地区外の子どもの参加は、地区の子どもたちにとって大きな影響というか、刺激になったと思います。また、地区外から参加した子どもたちにとっても、自分が参加しようと思ひ、行動したことで得たことが大きかったようです。

毎年1月の終わりに、愛南町では、愛南町人権ふぉーらむがあります。それには、交流のある方たちが町外、県外から遠路はるばる来てくださいます。(笑顔で小豆島のメンバーを見ながら)今年の愛南町人権ふぉー

一らむには、この鳴門人権地域フォーラムで知り合った小豆島の方々も来てくださいました。ありがとうございました。後の「飲みニュケーション」も、話は尽きなく遅くまで語り合いました、楽しかったです。(よろこびを精一杯の言葉に込めて)この愛南町人権ふお一らむでは、塾生は手を挙げ、自分の思いを語るのが恒例になってきました。自分の思いを一生懸命会場に来ている人たちに語ります。小学生は中学生が語る姿を、中学生は高校生が語る姿を見ながら、来年の自分の姿をその先輩に重ねながら必死に聞いています。そんなうれしい引継ぎがこの愛南町人権ふお一らむで見られることが私たちの楽しみの一つにもなっています。

地区外から参加する生徒は、未来塾から旅立つ時に「先生に誘ってもらえてすごく感謝しています。もしかして未来塾に参加してなかったら、人権についてここまで真剣に考えることはなかったと思います。自分の為になったし、仲間ができた。ここで学んだことは忘れません。これからの生活に活かしていきたい。」と話してくれます。

塾生たちは、いろいろな場所へ出かけて行って現地の方々の話を聞いて交流を深め、一人一人がそれぞれ考え、感じて帰ってきて、それをまとめて、年度末の閉講式である「はじめ式」でそれを発表する。そういう繰り返しによって、徐々に人権感覚や人権意識をみがいています。

### **友だちが共に学び続けてくれるよろこび**

子どもたちもそうだと思いますが、大人の私にとっても、友だちが共に学習し続けてくれることは、何より嬉しいし力強く思います。私は、親しい友人にも少ししか話せませんでした。その中で、一人の友人は、あることがきっかけで同和問題学習に対してどうしていいか迷い遠ざけていたそうです。

うちの隣保館では、月に一度「つくし会」という場で同和問題学習会をしています。そのつくし会で講師を招いて講演会があった日に、彼女は私に声をかけてくれました。「これから、参加してもいい？」と。その時、彼女は今まで心に溜まっていたことを思い切って吐き出しました。それを聞いた講師から「先生という殻を脱げばいいよと言われたことで、スーッと楽になった」と話してくれました。今は、その彼女の人権教育にかける熱意に圧倒されています。共に勉強しているのが嬉しくて、とても楽しいです。

### **全同教…分科会で実践報告を期に**

未来塾ができてしばらくして、未来塾を立ち上げさせた頃の状況を発表する機会がありました。それは、いきなり愛媛県で開催された全同教からでした。とんでもないと私は思っていたのですが、一緒に報告したもう一人の母親があっさりOKしたものですから、私も覚悟をして引き受けました。私たち2人ではなんとも不安でしたので、一緒に関わってきた女性の先生と一緒にだったのでなんとかなんとかなると頑張りました。

いよいよ報告する時、緊張はしましたが、心強い仲間たちが目の前一行目に陣取ってくれていたのも、補足したりすることがあればすぐに助け舟を出してくれる面々が、やる気満々でニヤニヤしてスタンバっていてくれたので安心でした。それを期に、何度か未来塾に関する報告する機会をいただきました。

(力強く生き生きと)私は、同和地区に生まれ、同和地区で育ち、今もそこに住んでいます。その中で美容業を営んでいます。あえてそうしました。地区外の人たちにも私のふるさとである下長野に来てもらいたかった。知っている人も知らない人も入って来てもらいたかったんです。お客様との会話のなかで、ときおり出てきます。同和地区の人たちに対する偏見がみえてきます。それは、何も知らず親や周囲の影響で持ってしまったことだと思います。その内容は結婚に関することです。「ばかばかしくないですか?」とだけ私は言います。知らないというのは、自分も損をするし、他人を傷つけることになりかねません。

まだまだ知らずに他人を傷つけているかもしれない私ですが、これからも未来塾の子どもたちと共に学習していきたいと思っています。終わります。(拍手)

## 《コーディネーター A》

会場の皆さん、愛南町に行かれたら、お客さんとして、ぜひBさんの美容室を訪ねてください。髪型だけでなく、心まで美しくなる美容室です。(会場内に温かい笑い)そんな世界をいっぱいつくっていく学びだと思います。人と人とのつながり中にいっぱい差別がある。その関係をきちっと整理していく。それを確かな関係にしていく。(温かいまなざしで)学校は、つらい思いをするためにあるんじゃないんです。理解し合うことで学ぶよろこび、生きるよろこびをつかんでいく場所なんです。

また、私たちの地域社会もそうだと思います。職場もそうだと思います。人間関係の中で差別やいじめは起こります。それをきちっと正していける。言葉の力、関係をつくる力、そんな力量を、そんな豊かな心を、しっかりと私たちのものにしていく。そんな歩みを大事にしていきたいなと思います。

この後、Cさんがしゃべってくれます。2人の話をきちっとまとめてくれます。いけるな。いけるかな。(パネリストの笑顔でうなづく姿に会場に大きな笑い)はい、マイクをお願いします。拍手をお願いします。(拍手)

## 《パネリスト C》

(笑顔で元気よく)こんにちは。(会場より「こんにちは」)阿波市在住のCです。よろしくお願いします。先ず、最初に話をしたいことは、半月くらい前のことなんですけど、しゃべってかまいませんか?(会場の空気を見ながら、穏やかな口調で)反応がないのでやめます。(笑いの中、笑顔で)いえ、しゃべります。

### エピソード…ウメコとマムシのこと

夜中1時半頃に、友だちとカラオケに行っていて帰りました。帰った時に、家には「ウメコ」っていうかわいらしい雑種の犬がいます。ウメコの散歩をしてから寝ようと思いました。ウメコのつないである鎖をほどこにいくと、ウメコがつないである柵の中を何やらにらんでいるんですよ。「何を見よるんかな」と思ってよく見てみると、マムシでした。(会場から驚きの「ええっ!?!」声が上がる)蛇でした。うちの周りは蛇がおって不思議はないんですが、「マムシ」と気づいた瞬間、身体中の毛という毛が逆立つのを感じました。

実は僕、蛇が大嫌いなんです。(会場内笑いの起こる中で、より真面目な顔で臨場感あふれる語りが続く)だけど、そんなことを言っていたら家の大事なウメコが噛まれても大変なことになると思って、一生懸命綱をほどこいて、ちょっと見たら、そこにホウキがあったんです。ホウキの柄で、マムシをつついてやっつけようとしたんですよ。そしたら、マムシはそばにあった洗濯機の裏に隠れてしまって、なかなかつつけない状態になったんですよ。

ウメコの手綱を持ったまま、ホウキも持ったまま、洗濯機を押さえて懐中電灯で照らしながら、棒でつつきながら「倒しにくいなあ」と思って気づきました。ウメコの手綱を持ったままだからやりにくい(笑い)と、動転していたからやっつとそこで気づいて、ウメコを違う所につないで、また棒でつついたんです。

棒が1mくらいで蛇は30cm位です。でも、僕はこの30cmの蛇が怖くてたまらない。それを、勇気を振り絞ってやっつけよるんです。やっつける最中、後ろからウメコは興奮した様子で「ワン!ワン!ワン!ワン!」吠えるんです。飼犬の鳴き声が、僕は怖くて怖くて仕方がないんです。それだけ僕は追い詰められた状態でした。

しばらくすると、家の母親が、ウメコがうるさくなくものだから怒鳴ってきたんです。「夜中の2時やのに何しよるん!」僕が、「何しとるんって、ここにマムシがおるんだ」と言うと、「ええっ?!」と言って、すぐに戸を閉めて逃げてしまいました。(笑い)それでまたマムシをやっつけようとして、何とかしてやっつとやっつけました。(会場にホッとした表情が広がる)

でも、そのやっつけている最中に、動転している自分があるのと同時に、冷静な自分があったんですね。その、冷静な自分があったから戦えたんですね。その冷静な自分というのは何か。「戦っている自分ってカ

ツコいいな」って思ったんです。(笑い)だから戦えたんです。なぜカッコいいかわかりますか？臆病な自分ってあるでしょう。蛇が怖いという、それは仕方がないんです。だけど、その時に思ったのは、そのマムシをそのままにしていたら家のウメコが噛まれる。そして、もしもそのままほったらかしにしていたら、家の家族が外に出た時に噛まれたらいけんと、その時に責任感が湧いてきたんですよ。

ここにマムシがいるということを知っているのは自分だけで、今、ここで駆除しておかなければ誰かが噛まれる。そう思ったから頑張れたんです。マムシを退治して、安心してるところへ父親が起きて来ました。ウメコが吠えていた理由を聞いてきたので、マムシがいて退治したことを伝えました。すると…父親が「わしを呼べばいいのに」と言うんですよ。倒した後に言われてもね。どうしようもないですよ。(笑い)僕は、父親は酔っぱらって寝ているからあてにならんと思っていたんです。

### **知らせること、教えること、乗り越えることによって得られること**

(語る表情を切り替えるように)こんなエピソードがありましたが、これも結局、「寝た子を起すな論」と一緒だと思うんです。誰も、自分の被差別の部分語りたとか知られたらって思いませよ。でも、知らせることによって、教えることによって、嫌なことを乗り越えることによって次に得られることは、常に冷静でいられる自分、認められる自分、強くなれる自分を発見していくと思うんです。

怖いから、嫌だからとほったらかしにしていたら、何かの害に会うんですよ。わかります？今、僕がしゃべっていることは、何でマムシの話から人権の話になるのかと思われる方もおられると思いますが、(会場笑い)これはあえて話をさせてもらっています。一緒だなと思ったんです。

### **「部落出身であること」をひとつごとにして自分から気づいたこと**

(言葉に精一杯の思いを乗せて)生活の中に、考え方の重なる部分がたくさんあります。例えば、僕は被差別部落出身の人間です。だけど、僕はその立場を隠していました。隠してどうにかなると思っていました。

「部落出身である」という「わがこと」の部分、僕は、「ひとつごと」にしていたんです。その「ひとつごと」にしていた自分ということを感じかされることがありました。

学生時代に恋愛差別にあいました。その差別を見た時に、最初は差別をしてきた彼女を恨む部分がありました。だけど気づいたんです。その前に、彼女にすら自分が地区出身であるということを隠していた自分のずるさ。卑怯さ。自分のことなのに「他人事」として扱っている自分の問題点に気づくことができました。

そして、自分自身が、まず変わらなければいけないのは自分だと思って、その時に一つ目標を立てたことがありました。将来、部落出身の母ちゃんの血を引き継いでいることを理由に、結婚する時、就職する時、差別されるかもしれん。その立場を受け入れなければいけない自分がある。だから、「好きな人と結婚しよう」という目標を立てて、好きな人と結婚できる自分になろうという目標を立てて、立ち上がりました。

(切々と)そして、大学時代教員を目指して、教育大学に行かせてもらって、卒業して地元の小学校の学習会専任指導員として地区の子どもたちと関わってきました。地区の子どもたちと関わっていくうちに、2つ目の目標を学ぶことができました。2つ目の目標は、関わったのは20代でしたが、僕は、「地域のおっちゃんになろう」という目標を立てたんです。最初、20歳くらいの時は、「好きな人と結婚をする」という自分自身の目標を立てたんです。2つ目として周りの人と関わりが大切だなということを感じかされて、やっと、「地域のおっちゃんになろう」と思いました。偉いおっちゃんになるのではなく、人を見下す人間ではなく、「Cのおっちゃん、こんな話があるんだけど。」と寄って来てくれるようなおっちゃんになろう。この子らと同じ目線において、同じ生活をしていきたいという目標を立てることができました。

3つ目は、30代に入って、県外を含めて各地で講演をさせてもらっています。この会場にも、いろいろな所でお世話になっている方もたくさんおられるんですけど、出会わせてもらったりするんですけど、その人たちや、今まで出会った子どもたちの現状を見ていくうちに、3つ目の目標を立てることができました。

## あることはあることにしてないことにしない人権教育を

(話に力がこもる)それは、今日のこの会のタイトルにすごく似ている部分なんですけど、「あることをないことにしない」ということが目標なんです。本当はあるはずだけどもないことにして平和としている、今現在の風潮はないでしょうか。いじめ問題のことが取りざたされて問題になっていますね。いじめがあったのにないことにして、結果、子どもが死んでしまった。苦しい子たちがバンバン出てきている状態にありますね。でも、そのないことにしていじめている人間。差別している人間。もちろん悪いと思います。

ただ、僕は問題としてもう一つあるのは、差別する人間、いじめる人間を支えてしまっている社会の風潮があるのではないかなと思います。僕は、そのことの一つとして、同和教育・人権教育が徹底できなかった部分だと捉えています。どういうところかというと、僕は、学生時代、同和教育・人権教育が大嫌いでした。何故かと言うと、暗い話、硬い話、しんどい話ばかりを学生時代に聞かされて、心が苦しくなっていていつも終わっていたんです。「こんな授業嫌だな」と思う気持ちが、いつしか「人権教育・同和教育嫌だな」という気持ちにつながっていました。

そういう気持ちを抱いたまま、僕や僕の周りの友だちが取ってきた行動というのは、ちょっとした同和教育の部分を取り上げて、先生が言うんですね。「差別はダメですよ。」それによって、「差別ダメなんだな」「人権大切にせないかんのやな」と、上辺だけの言葉だけを自分のこととして、それで感想を書くことをしていました。

実は、中身はないです。そんな授業をしても自分が受け入れてないから。じゃあ、自分がどんなことをしていくかということですが、やはり中身がないから上辺だけのことになっていきます。でも、中身がないから、その上辺だけのことが乗り切れない部分があります。その乗り切れない部分はどうなっていくかと言えば、いつしか、差別する人間、いじめる人間だけを攻撃して、「あいつが悪い」ということだけで、自分は正義だ。こういうことはないでしょうか。

今、世の中にそういうことはたくさんあると思います。でも、本当に大事なことは、いじめをしない、そして、させない人間を育てることはもちろん大切なわけですけど、今現在置かれている状況というのは、その人たちを攻撃することだけで終わっていて、(話しながら一呼吸置き、照れたように)ごめんなさいね。しゃべりながら同じところをぐるぐる回っていて。(会場から笑い)いつしか、攻撃することを悪いと思う気持ちだけが表に出るんですね。それは何かと言えば、結局「ないことにすること」なんです。

いじめを起こすことが問題だ。差別が起こることが問題だということだけに焦点を置いて、いざ起こったら誰かに責任転嫁をするんです。いじめる人に責任転嫁をするんです。その周りの学校の先生だけに責任転嫁をするんです。そういうことによって、結局は、誰かをいじめる人間が変わるだけで終わるんです。

そうではなく、みんなで解決方法を探らなければ、いつまでたっても、いじめられる人間、自殺する人間、差別されて苦しむ人間はなくならないと僕は思います。一度痛みに会うかもしれませんが、やはり、あることをあるとして、ないことにしない人権教育を進めていかなければいけないと思います。

## 人の思いに歩み寄れる視点を持つこと

今年の6月の末に、僕の講演を聞いてくださったお母さんから感想文をいただいた内容があるので、それを説明したいと思います。そのお母さんが感想文を書こうと思った背景には、僕が前からしゃべらせてもらって、例えば、「家族が好きだ」という女の子がいるんですけど、その女の子の話をしたことがありました。その話を聞いたお母さんが、こんな感想文を書かれたんです。

**「私は、自分の娘にここ10年会っていません。自分の娘が大学を卒業した後、障がい者支援施設に就職しようと私に話を持ちかけてきました。私は、大学を卒業した娘を障がい者に関わるような仕事に就かせることをものすごく反対し**

ました。そこで親子でケンカをして、娘は就職していきました。今はその娘とも連絡を取っていません。

でも、今日、講演の中で『家族が好き』と言っている娘さんの話を聞いて、私はあの時自分の娘に歩み寄れる勇気を持てたら、今のこの現状はなかったと思います。今回の話を聞いたので、10年ぶりに娘に連絡を取ってみようかと思う気持ちが生れました。話が聞けて良かったです。今度は、私の地域の中学生、高校生の子どもたちに講演を聞かせてあげてください。」

こういう感想文をもらいました。我々は、何かを間違った瞬間に、「自分は正しい。自分だけが悪いのではない」と思うてしまう弱さがあると思います。そういうことがなければ、自分自身を否定しすぎてしんどくなるのも事実だと思います。でも、それをもう一つ乗り越えて人に歩み寄ってあげる。お互いのことを考えられるような視点を持たなければいけないなど、いろいろな人と関わらせてもらいながら思うことができました。

6月にも愛南町のMさんとも出会わせてもらったんですけど、やっぱりこうしてつながっていくことによって、その言葉、その出会い方などを素直に受け入れられる。もしくは、「この人はこういう意味を持ってこうしゃべっているんだな」と思える語り合いの場、人間関係が持てると思います。

人間関係がない人間が、ちょっときついことをしゃべったら、「この人嫌い、差別的だな」と思うてしまうかもしれませんが、その前に人間としてのつながりがきちんとあったら、「この人はこういう理由があって、仕方なしにこうして教えてくれているんだろうな」と思うことができ、お互いの歩み寄りができると思います。

地区・地区外の人間同士のつながりというものを大切にしたいと、現在思わせてもらっています。ちょっとしどろもどろになったり、語りすぎた部分もありましたが、大分顔もあがってきたところで(会場から笑い)終わります。ありがとうございました。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

(パネリストの言葉を受けて、しみじみと)言葉が心に染みていきます。仲間を信じて自分のことを語るよろこび。身体が震えて涙が止まらなかった体験。その中から人と人とのつながりを通して、言葉を通して、やっぱり世界が変わっていくと思うんです。

20数年前、私の教員のスタートは藍住中学校でした。身体を張って必死に部落問題を語りました。その時の生徒が私によくこう言いました。「何で先生はそこまで同和問題に取り組むん?」「何でそんなに必死になるん?」と。そう言われた時に「俺のことなんや。俺が同和地区なんや」って20代前半の私は、当時まだどう言わなかったです。そう言えとったら、もっともっと深い語り合いができたかもわかりません。

でも、人と人とのつながりの関係の中で変わっていきます。今日、3人の話を聞いていただいて、いろんなことが自分の中にこみ上げてきた。自分の中に広がったという、生活の事実、切ない思い、そのことを言葉にすることによってつながりができます。その言葉は自分を癒していきます。

語り合いの人権学習のよろこびは、自分の精一杯の言葉が、自分を癒し仲間を癒していく。そこに豊かな関係をつくっていくんだと思います。窮屈な中で聞いていただきました。10分間休憩を取らせていただきます。エコノミー症候群にならないようにしっかりと運動してください。

前半終了

=意見交換=

#### 《コーディネーター A》

それでは、後半を始めたいと思います。前半3人の話を聞いていただきました。この会場に仲間も集まっています。いろんな立場の思いを出し合って、自分に何ができるか、自分自身のことの語り合いが広がって

いったらなと思います。マイクを回していきますのでしっかり挙手をしてください。いきましょう。(言葉の終わるか終らないかのうちに、真っ直ぐに手の挙げた高校生に温かいまなざしを向けながら)いこうか。マイクをお願いします。(マイクが渡るのを待つ)いきましょう。

#### 《フロア K》

(立ち上がり、マイクをしっかり握りはっきりとした口調で)さっき、Bさんに紹介してもらったKです。塾長になったのは去年です。私の目標は、Bさんの娘さんのひかるさんです。

私が解放未来塾に入ったのは小学校5年生の時、何をするのもさっぱりわからなかったし、これから何をしていくのかも全然見当もつかなくて、いつも疑問で人権学習をしてきました。それで、徐々に何をしているのかわかるようになって、発表をする時に自分に自信がついて、成長して、いろんな仲間も増えたと、とてもいい思い出になりました。

未来塾に参加するのは、最初「嫌だな」とか思ったりもしたけど、参加していく上で自分をさらけ出せるようにもなったし、自分の生まれた地域のことも人に話せるようになったし、学校で言えないことが未来塾で言えるようになりました。

(ニコニコと)私にとって未来塾はかけがえのないもので、とても誇りになったと思います。私はもう少しで卒業するんですけど、暇を見つけてでも、これからも人権学習を続けたいと思うし、解放未来塾の大切さを伝えていきたいと思いました。今日はこの会に参加してとてもよかったです。ありがとうございました。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

(力強く)今の話の中に、初代塾長の先輩の話が出てきましたが、憧れです。モデルです。その憧れの先輩の姿を見て、1年後、2年後、中学生になったら、高校生になったら、自分もそんな姿でありたいと思うんです。それがやっぱり子どもたちの生き抜く力になっていくだろうし、我慢我慢の人権学習、退屈な人権学習がよろこびに変わっていくんだと思うんですね。

(前の席の専門学校生のかつての教え子を、溢れる笑顔で見つめながら)1年前の夏休みに、今大学生の仲間8人に、当時の北島中学校の1年生に話をしてもらったんですね。その時に、語る19歳の大学生の姿が憧れになるんです。その出会いに子どもたちがずっと伸びていくんです。

その映像っていうのはきちっと撮ってあって、いろんな所で紹介するんですけど、やっぱり、なかなか話が聞けない中学生がいるんです。じっと聞けない中学生がいるんです。でも、その本当の話を聞くんです。ちょっと、その去年実施した「卒業生に学ぶ人権学習」の時の話をしてくれそうです。

#### 《フロア S》

(北島中学校での教え子である大学生が、振られて戸惑いながらも立ち上がり、困ったような照れくさそうな表情の中でマイクを待つ。コーディネーターとの和やかなやり取りの中に、会場に明るい笑いが起こる)私は、去年北島中学校の1年生に、自分がされた差別の話をしました。私がされた差別は、定時制高校に通っていたんですけど、そのことで、大人の人たちにいっぱい差別をされたり、いじめを受けたりしていました。その時に、私は偉そうに、「定時制高校が普通の高校だと知らないから、おばちゃんたちが差別をしてきたんだ」と言ったんですけど、(まっすぐにフロアの方を向き)私は、今年から大阪の専門学校に通っていて、中国人と韓国人の友だちができました。

私は最初、日中や日韓の関係があまり良くないのでどうなんだろうなと思っていて、続けられるのかなと思っていて、正直、嫌だなと思っていました。私は、国同士のことはいろいろあっても、同じ年の女の子同士が別に何も無いじゃないかと思ったので、普通に接していきました。

すると、すごく仲良くなって、その中国の友だちとも、韓国の友だちとも、その、中国と韓国の実家に招待してくれるというくらいまで仲良くなったんですけど、その時に、やっぱり、その2つの国は反日の人が多いから、そんな恐怖心が、友だちの実家に行って後の付き合いが悪くなったりするんじゃないかとか、いろいろ考えて、勇気を出して2人に聞きました。中国と韓国は反日で、そういう日本人が実家に行ってもいいのかと。

そうしたら、2人とも、「日本人だって中国や韓国のことを嫌いな人もおるけど、好きな人だっているでしょ？中国も韓国もそれは同じなんだよ。」と言われました。(笑顔で)その時に、「そうか、そんな簡単なことだったのか」と思って、自分が今までいろいろごちゃごちゃ考えていたのが恥ずかしくなりました。

そこからは、国同士がいろいろあっても、同じ年の同じ女子だから、おしゃれもしたいし、恋の話もするし、もっと仲良くなって、今後は私たちの時代がもっと仲良くなって、大人になった時には、もう何もわだかまりのない世の中になればいいなと思います。(ニッコリしてコーディネーターを振り返りながら)もう、しゃべれないんですけど…。

### 《コーディネーター A》

(うれしそうに温かい笑顔いっぱい)ありがとう。(会場からSさんへ大きな拍手)いろんな立場の方が集まっておられます。いろんな生活があるし、いろんな現実の中を皆さん生きておられるんだと思います。ここに集まって話を聞いた思いに対して、私は何を返せるんだろうか、また、私の中にあることなど、そんなやり取りができたらいいなあとと思います。挙手してください。(前の席から手の挙がった女性に)いきましょうか。お願いします。

### 《フロア S》

(立ち上がり、フロアを向きながら)鳥取県から来ました。今年もこのフォーラムに参加することができました。私は、皆さんの話を聞きながら、人権教育、同和教育と関わるようになって、毎年本気で関わりだして25年になります。その中の10年くらい経ったところに、私はそれまで、自分の中に少しこだわりを持ちながらも、頑張っていると思って続けていました。

鳥取県には、今は名前が変わり参加者も減ってきましたが、当時、「部落解放鳥取県研究集会」と言っていた3000人くらい集まる研究集会があります。その中で、「部落外にいて、そこで頑張っているあなたの思いを伝えてほしい」という機会をもらって、そこで自分宣言をすることで、自分の中ですごく吹っ切れたものがありました。「これだけの人の前でしゃべったんだ。よし、これからは安心して思ったことをどんどんやっていいんだ」自分の中でそんな思いがありました。

そして、自分の思いを語ることによって、部落のお父ちゃんお母ちゃんとか、いろんな方といっぱい出会うことができました。その方の思いを伝えてもらう。そして、中途半端でもいいから自分の思いを伝えていくということを通して、本当に本音でお互いに語り合えたなと思って、そういう仲間もいっぱい増えてきました。

人権教育、同和教育の研究会の体験発表は、被差別の立場の方が、こんな努力をしてきた。こんな辛い思いがあった。それを乗り越えて今があるというものが多いです。私は、「これでいいのかな」と思います。本当は、こういう場で、部落外である私たちが、「こんな出会いの中でこんなふうに変われた」「私は、自分の感じた思いをこうしていきたい」ということを少しずつでもいいから、言葉に出しながら自分宣言をしながら、部落外の私たちが解放されながら前に進んでいくことによって、部落問題の解決の方向へ動いていくんだなと思います。

私は今、続けてくる中で、共感してくれる仲間が全国にできました。部落問題の学習をしても、こうやって続けてきた中で、少しずつでも「自分の思いをしゃべってもいいんだなあ」と思う人が増えてきました。

小地域懇談会の中で「部落問題」をテーマに取り上げても、以前は言葉を選んだり、話をする事ができなかったけれど、続けてきたことによってしゃべれるようになってきたなという声を多く聞きます。数年前に、小地域懇談会の中でこんな声を聞きました。「隣の部落が同和地区だけど交流しているから何ともない。みんな、とにかく交流することだよ。」学習会の場ではっきり言い切る高齢者の姿がある。こんな現実も出てきました。

続けることはやはり宝だと思います。そして、思いを伝え合っていくことが、今の現実を少しずつ前に進めていくための大きな大きな力だと思います。1人の言葉は小さくても、その小さい言葉がつながり合うことによって、人権教育を本気で語り合っていくことが当たり前になっていくんじゃないのかなと思います。今日もこの場がそういう場であることを祈ります。(元氣よく会場に向かって)後、つないでください。お願いします。(拍手)

### 《コーディネーター A》

はい、ありがとうございました。ドキドキしながら聞いて、本当に「ひとごと」だった部分が「わがこと」へなっていく。そんな、これからの時間になったらうれしいなと思います。いかがでしょうか。どうぞ。

### 《フロア K》

(前の席からマイクを持って立ち上がり、フロアを向き話しかけるが、戸惑ったように壇上の見たり身体の向きを変えたりする動作に会場に明るい笑いが溢れる)

(照れくさそうに)失礼します。ちょっとパネリスト方にはお尻を向かせてもらいますが、僕は、中学校の教員をこの春からしています。徳島県で生まれて、高校時代ずっと野球をしていました。そのメンバーで大学生として野球をしたり、遊んだり遊んだり(笑顔の繰り返しに笑いが起こる)そんなことをしていました。

今、皆さんの話を聞きながら、僕は、自分のことをしゃべり慣れてはいないんですけど、高校の時に野球部のキャプテンをさせてもらっていたんですが、チームはすごく力があって、四国大会で準優勝することができて、「夏の甲子園に絶対行くぞ」という気持ちで僕はいました。四国大会が終わって、練習試合をいろんなチームとしてみると、全く勝てない現実があって、僕はその時にすごくモヤモヤして、チームのみんなに、僕は偉そうに「もっと動いてくれよ」と思ってしまったり、そして、チームのみんなも僕に対して不安があったりしたと思います。

(当時に思いを馳せながら)その時に、僕はもう耐えきれなくなって、遠征の帰りに1人で泣いていて、それを見た監督が「悔しかったら全部話でもしてみい」と言われた一言で、それまでは、いつも一緒に頑張っていた仲間だったんですけど、何も言いたいことが言えてなかったのも、時間を取ってみんなと話し合うということをしてしました。

(切々と)いつも交わすような話をするのは簡単なんですけど、その時、僕がみんなに、「こうなって欲しい」ということがすごく言いにくくて、言った時もすごく震えたし涙が出るしということも、皆さんの話を聞きながら思い出しました。やっぱり、初めは、僕はそのチームの仲間のことすら信用できていなかったという気がします。ただ、その時自分が言ってから、みんなも、次の日から朝練習を自主的に取り組んだりとか、チームがまた一つになるというか、すごくいい関係になっていって活動できたということがありました。

(明るい表情で言葉に力が入っていきながら)僕は、そういう経験をみんなに伝えたいというか、いろんな人に味わってもらいたいという思いがあって、「絶対先生になろう」と思って、先生になることができたんですが、4月、5月、6月、7月と、実際、何もそういう思いを子どもたちに伝えることができていないし、どちらかと言えば怒ることばかりになってしまっているなと感じました。

(笑顔で)やっぱり、僕が高校の仲間と作っている関係というのはすごくうれしいし、すごく個性は強い

すけど、いろんな違いを認め合って笑いに変えられるというか、その温かい空気があります。その雰囲気、今僕のいる藍住中学校のみんなにも味わってほしいので、今はまだできていませんが、また頑張らないかなと改めて思いました。

本気で子どもたちと関わりたいし、本気で関わって、叱る時は本気で叱って、子どもたちともいい関係を作ってやっていけたらなと感じました。(語り終えてホッとしたように明るく)私の話はこの辺で終わります。ありがとうございました。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

(嬉しそうに語り終えた男性の顔を見ながら)子どもたちがええ顔で話を聞きよるわ。(語った本人や会場から明るい笑いが起こる)ありがとうございました。どうでしょうか。

フロアから4人の方の思いが語られたわけですけど、また、3人のパネリストの言葉を通して、いろんなメッセージがあったと思います。「あることをないことにしない」このことを考えても、現実、あることをないことにしていることに対して、何でもないような顔をしてばかりじゃないですか。辛い思いをしよる。でも、そうでないような顔をして耐えていく。関係が途絶えていく。学校へ行けない。力が抜けていく。そうじゃなくて、やっぱり、おかしいことはおかしいと言える。そのことに思いを返していく。力をもらう。

(力を込めて)生きるということは、人を大事にするということは、すごいことです。そんな自分を見出ししていく。そんな日常の暮らしを作っていきたいと思います。声を上げる。そして、その声を必死で聞ける。共に考えていける。大事なものは日常です。そんな日常を作るためにこの場があると思うんです。

本当に限られた時間です。限られた人の意見です。でも、それを持ち帰って家族で語り、職場で語り、地域で語っていく。そのことが「ひとごと」でなくて「わがこと」にしていく。私が幸せになる。私の周りの人が幸せになる。そんな日常になっていくんだと思います。どうでしょうか。今、思いが語られました。つなげていただきたいと思います。どうぞ。

#### 《フロア I》

(ゆっくりと言葉をかみしめるように)失礼します。私は、今、高浦中学校という所で勤務しているんですけど、5年前、前に座っているDさんが卒業した後に、新任教師として北島中学校に赴任させていただきました。先ほどの新任の先生のやり取り、A先生のやり取りを聞いていて、非常に懐かしく思います。私も北島中学校で3年間、A先生のもとで、語り合いの人権学習に取り組みさせていただきました。今でも、その時の「生徒が生き生きと自己を語る姿」とか、「生徒の想い」とかというのは、私の心の中で生きています。

(生き生きと)少し話が変わるんですけど、私は今、自分の父親と一緒に住んでいます。いつも一緒に住んでいますので、よく口論になったりとか、ケンカをしたりということもあるんですけど、ちょうど7年前、私は結婚したい女性がいるから紹介したいと父親に話したら、私の父親は、「お前が結婚する人だから、お前が気にいった人だったら、どこに住んでいようとも何をしようとも、お前が気にいった人と一緒になれたらこんなにうれしいことはない」と僕に言ってくれたんです。それがすごくうれしくて、当時涙を流しよるこんだことを覚えています。

(きっぱりと)私には今、2人の子どもがいます。10月には3人目も生まれます。やっぱり、A先生から学んだこと、A先生を通してできたつながり、父親からの言葉や生き様から、私も一人の父親として、一人の教師として、また高浦中学校の生徒と頑張っていこうと、今日改めて思いました。今日はどうもありがとうございました。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

ありがとうございました。(フロアの手が挙がったのを確認し)はい、じゃあ一番後ろの方。どうぞ。

## 《フロア 男性》

今日、ここに来た時に人権侵害をやったんです。車を置くところがないので、身体障害者用の駐車場に車を止めて、非常に悪いことをしたなと思いながら、この会に参加させていただいています。

私は、4か月前まで6か月間、非常に貴重な経験をさせていただいた職場なんです。徳島県の方なら知っている方もおられると思いますが、「地域活動支援センター『太陽と緑の会』リサイクル作業所」というNPO法人の場所で、6か月間、知的障害、精神障害、身体障害のメンバーさんと一緒に、専任指導員という形で仕事をさせていただいたんですけど、彼たちは、語ることは非常に不器用です。感情を出す時には、多動というか暴力とかいうことに出る時もあるんですが、その中で非常に教えられることがあるんです。

水曜日の担当が私なんですけど、毎朝、職場で「早朝ミーティング」というのをやります。その時に「いらっしゃいませ」、「ありがとうございます」ということを、メンバーさんとスタッフが一緒に朝のミーティングの中で言い合います。

お客さんが持って来てくださったものや、提供してくださったものは、直したりしてリサイクルショップをやっております。皆さんに彼らのことを知っていただくことと、買っていただくことを通して、そのお金で活動をしています。

国からの補助は2割です。そのために彼らは、来てくれたお客さんに対して、「暑いですね」とか「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」という言葉を通した中で学んでいきます。何を彼らから教わったということではなく、その日常で汗を流して、そういう言葉を味わう中でいろいろ教えていただきました。

外国の方も来ておられます。日系の方とか、イスラムの方とか、アフリカの方も来ておりました。先般、徳島新聞に、ウガンダの人で職業訓練校を開いたという記事も載っていましたが、外国の方が来ている時に、私たちは英語を使わなければいけないと思うんですが、作業所のメンバーさんである彼らは、身振り手振りで外国の人と話すんですね。下手な英語よりその方がよく伝わって、「ありがとうございます」ということを「ありがとう」とつたない日本語で返すということが日常的にあって、そういう経験をする中で、人間の触れ合いとか人間の強さみたいなことを感じました。ちょっとプライベートをしゃべったかもしれませんが、以上です。(拍手)

## 《コーディネーター A》

ありがとうございました。具体的な体験や事実を語っていただいて構いません。伝えたいこと、感じたこと、それを通して私たちの在り様ということを考えていただければと思います。どうでしょうか？はい。どうぞ。

## 《フロア 男性》

自分も学級の担任をしていて思うことなんですけど、お父さんやお母さんがしんどい状態になってきているということが、一生懸命自分たちが取り組んでいこうと思っても、なかなか伝わっていかないような現実が、今、学校の中で起きつつあると感じてきました。

自分は40人のクラスの担任をしていますが、その中で、15人がお母ちゃんだけの子どもたちです。お母ちゃんもそういう生活の中で一生懸命やっている。その一生懸命やっていることを、自分がわかって関わって、しっかりと寄り添って行かないといけないと思いながら、家庭訪問をしたり何かやしながら、でも、何か糸口も見つからないまま、わがことにも充分できないまま、今日ここに来させていただきました。

昨日まで、2泊3日の自然体験学習に行っていました。その中で、学校に行けない子どもが自分のクラスにいるんですが、その子が、クライミングホールで壁を登る時にしんどさがあるんです。その時に、周りから子どもたちが、今までに聞いたこともないような励ましの声で応援をしてくれたんです。その子はどちら

かと言えば、何かしようとしてもすぐにあきらめて、「俺にはできんもん」と言ってすぐにそのままやめてしまう、そういうことがよくある子でしたが、その時は、ものすごく真剣な表情で、一生懸命最後までやって、とうとう一番上まで登り切ることができました。大拍手が起こりました。

自分もそこにおいて、「この子らが支えているんだ。子どもたちの気持ちがつながっていく中で、力が湧いていくんだ」ということをその瞬間に感じました。その後いっていないけども、なんかうまくいける部分もあるんやなということもすごく感じながら、しんどさがあつてすごく苦しいけど、今一生懸命やっている。その中でも確かなつながりができつつある。

学校の方に向けてくれている気はするけど、ちょっとずつ変わりよるんかなということを感じました。子どもの心に灯をつけるということが、「ひとごと」から「わがこと」へという言葉の中には出ていないけれど、やっぱり、自分自身を変えていこうと思うのは、自分自身であつて、子どもたちは自分が変わりたいと思う瞬間、自分が学校っていい所やけんって思う瞬間というのをつくっていくことが、やっぱり必要なことだと思います。

そのために何ができるんだろうか。昨日もずっと先生と話していく中で、学校の中にたくさん問題があります。それを解決しようと思ったら、親との関わりはどうしても欠くことができません。でも、その親と関わっていくといつても、その親が「お前に関わってほしくないんだ」と思っている関係の中は、ますます背を向けていくばかりで、自分が上手くそこに入っていくことができない。そんなことをしていてもうまくいかないだろうなということを感じます。

どこにどうつながっていくか。まず、何をどう関わっていくのかということ、自分では悩みながら活動を3年位やってきました。半分心が折れているので今日ここに来たんですけど、Cさんの話にあった「あることをないことにしない」それをないことにしてしまうおうと思ったら、全然見ないこともできる。でも、見ないことにするのではなく、見ていくことが大事だと改めて思いました。少し元気をもらって今日帰らせてもらおうかなと思っています。今日はありがとうございました。(拍手)

## 《コーディネーター A》

ありがとうございました。大変窮屈な中ですが、今日ここに来てよかった、そんな自分にしていく、そんな語り広がったらうれしいなと思います。どうでしょうか。(笑顔で前の席の女性から手が挙がったのを示しながら)はい。どうぞ。

## 《フロア U》

(ゆっくり立ち上がり、マイクをしっかり握りながら)こんにちは。私は、A先生の26年前の生徒です。(ニコニコしながら)今年41歳になりました。何で先生と今もつながりがあるかというのは、さっきから先生がここで語っているあの感じでずっと私たちは話を聞いて、今まで来たんですね。

私は、中学校3年生の時に担任だったので、たった1年間中学3年の時だけ担任だったんですけど、そのことがずっと心の中に残っていたというか、その当時15歳の時にはピンと来なかったんですけど、大人になっておかしいことがいっぱいありました。

今、子どもが3人いるんですが、その時に、先生が私たちに伝えてくれたことなどを、先生にお手紙を書いたんですね。それからの付き合いになるんですが、今は子どもが生徒ということなんですけど、でも、(うれしそうに)今も、私自身、先生の生徒であるという気持ちは変わりません。いつも何かを教えてもらっている。先生のそばにいと安心する。

先生の生徒さんがいっぱいしゃべりたい、語りたいたいという言葉聞いて、すごくその気持ちがわかります。私たちも、今、その中学校3年生の時のクラスでよく飲み会をしているんですけど、みんながしゃべりたくて、その時その時の辛かったことうれしかったことの報告をしたくて、(いっぱいの笑顔でコーディネーター

ーを見ながら、コーディネーターもニコニコしてうなづく)うるさいですよ、先生。

今、先生の話を知りたいんですが、私は今、3人の子どものお母さんになっていて、A先生のような先生に巡り会って欲しいなと思います。というのは、それで人生が変わって来るから。やっぱり生きてるとしんどいことっていっぱいあるんですね。その時に、なかなかクラスの友だちが何をしてくれるか、若い子はわかってないんですよ。

でも、そういうクラスづくりをしてくれた先生のおかげで、そのクラスで育った生徒は、本当に強く人を信頼できて、そして仲間づくりができています。それを、先生たちにもあきらめないでほしいし、保護者も先生たちが一生懸命頑張ってくれていることをわかっているんですよ。

しんどい思いをしている子にばかり注意が行きます。でも、はっきり言って親があきらめている部分っていっぱいあるんですね。それで、親があきらめてしまっている子どもってというのは、本当に寂しくて、苦しい思いをいっぱいしていると思います。だから、先生は忙しくて大変な状況だと思うんですが、先生が最後まであきらめないで関わってあげて欲しいなっていう気持ちがいっぱいあります。

もっともっと話したいことがあるんですけど、このような場に誘っていただいて、話をさせていただいたことにすごく感謝しております。ありがとうございました。(拍手)

### 《コーディネーター A》

(ニコニコしながら)ありがとうございました。(手の挙がっていた女性に)はい。どうぞ。

### 《フロア K》

(いっぱいの笑顔で)ドキドキしながら待っていました。(会場に明るい笑いが起こる)愛媛県の愛南町から来ました。Bさんが今日ここで話されるということで、なぜか私はここに入った時からドキドキドキドキしています。

今のA先生の話ですが、「私はA先生の教え子で」と言われた気持ちが、私の方が年は上なんですけど、(会場に笑い)痛いほどわかります。A先生とのつながりは、私の娘がA先生と知り合ったことから、いつもSちゃんのお母さんという形で、Kさんとはなかなか呼んでもらえません。

Bさんがさっきお話しされたように、隣保館で講演会があった時に、「隣保館の講演に行っていない？」と彼女に聞いて、彼女の「おいで」という一言からこの人権教育の道に入ったというか、すごく今幸せに感じているところなんです。

(切々と)私は、今、教員生活32年くらいしているんですが、解放未来塾が発足して7年です。それまでは、人権・同和教育がすごく苦手でした。どうして苦手かというと、わからないことをわからないと言えない。教員だから言ってはいけない、知っているふりをしなければいけない。そのことが自分の中で一番苦手でした。子ども以上にわからないことはいっぱいあって、自分のしていることは「差別はいけない」というような当たり前のことしか言えない、そういう自分が嫌で、こういう会が重荷でした。

でも、その隣保館での講演の後、相談した講師から「教員っていう服を脱げばいい」という言葉がスッと入って、「隣保館では何でも聞いていいんだ。わからないことをわからないって言っていいんだ」と思いました。(うれしそうに声を弾ませて)素直に自分のことを言える場所があるという、自分の居場所を見つけた時に、すごく心地よくて、全てがわかりませんでしたから、未来塾ができて子どもたちと一緒に関わりだして、元々が子どもと一緒にいるのか、子どもに追い抜かれちゃったかなと思うんですが、立場的には指導者ですが、子どもたちと一緒に歩んでいます。

子どもたちの姿を見るのがすごく楽しみです。今年から小学校が変わってしまって、それまでは中学校だったので、とても幸せな4年間を子どもたちと暮らしました。でも、同じ地域ですので、違う立場で子どもたちと一緒に居れることでよろこびを味わっています。でも、そのスタートを作ってくれたのは、このBさ

んの「いいよ。おいで」という一言です。

(ニコニコと)隣保館に行った時、いつも、地区のお父ちゃんが「おかえり」って言うてるんですね。その言葉がすごく温かくて、いつも自分は温かい所にいたいというか…、いろんなことが、日常生活にいっぱいあります。いろんな子どもたちもいるし、出るの辛いなど思うこともあるけれど、一緒に歩める仲間がいる。また、こういう知らない所に来て、いろんな人と出会えて、一緒に悩んでいく、考えていく。それを常にやっていこうと思っている人たちがいるんだということで、すごく楽しい所に足を踏み入れたなと思います。Bさんのおかげです。終わります。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

ありがとうございました。Kさんのご自身を表現される姿を、やっぱり、良いなあと思います。後、15分くらいです。どうでしょうか。じゃあ、いきましょか。

#### 《フロア 高校生》

質問でもいいですか？学校で、私は高校3年生なんですけど、学校の人権の授業で「差別はダメ」とかみんな言うんやけど、部活とか休み時間とかの中で、結婚差別発言というか「あの子はあそこの子やから、〇〇」みたいなことを言って、「それは違うんちゃうん。地域は関係ないやろ」って私が言ったら、(言葉に詰まりながら、精一杯言葉を綱ぐ)「何を言ってるん」みたいなことを言われて、それは高校の先生に言っても、聞いてはくれるけど、別に何もなくて。

(あふれる涙を拭きながら)仲間になりたいから一緒に集会に行かんかって、その子らに言っても、「めんどくさいからいい」って言われて…、(しぼり出すように)…私、これから何をしていけばいいかわからなくて、…友だちとかを、前にあるように「ひとつごと」から「わがこと」へと変えていくには、どうしたらいいかなって思うんです…。

#### 《コーディネーター A》

(語った高校生の思いをしっかり受け止めながら)ありがとうね。(ニコリと)Cさん、返してください。(温かい空気の中、本人と会場笑いの中で拍手が起こる)

#### 《パネリスト C》

答えます。(質問した高校生にいっぱいの笑顔で)まず、問題点は、「私にできること」はそれでいいの。わかる？(じっくりと語りかけるように)もう1つの問題は、先生の問題、大人の問題…。僕自身関わってきた経験なんですけど、「人権学習が嫌い」っていうのは、聞けば、ほとんどの子がそうだと思うし、僕もそうだったんですけど、人権学習を嫌いだった自分というのは、人権学習をあきらめている自分の姿だったんです。この人権学習はつまらんって思ったら、自分が変えたらいいと思うんです。

だけど、僕はつまらんことをつまらんまま子どもに教えたり、講演会でしゃべらせてもらうことがあったんですけど、できないことはできなくてもいいよって教えてくれたのが、こういう活動している先輩たちでした。だから、人権学習にまず関心を持ちたいけれど、先入観として周りの先生たちが教えてしまった、暗い、面白くないという部分を、身近な所から変えていけたら、みんなが入りやすくなるんじゃないかなと思います。

人権学習をちょっと勉強した子が、勉強してない子に対して、歩み寄ってあげる部分と違うかなと思います。今自分はしているけど、今度はあなたしなさいと言っても、そういうことを考えてないんだから無理だと思います。だから、できる範囲で寄っていったり、ちょっとずつちょっとずつやっていったら自分が楽になると思うし、もっと言えば、周りの先生方がそれをしなければいけない。

先ほど、Kさんがおっしゃいましたが、授業中、先生がわからない、教えられないと言えないというのは、それは授業者として給料をもらっている者として、授業の中では当然思います。ただ、しなければいけないのは、普段、日常の中で地域の中に入っていったり、自分自身が勉強していったり、そういうところで1個人としてわかろうとすることも必要で、そういう努力もせずにわからないという言葉を送信するのは、教員として僕はダメだと思います。

そういうところで、今、悩んで流した涙というのも、先生たちのせいだと思うけど、「私にできること」を見つけてもう少し頑張ってみてください。それが人権学習になると思います。(高校生から「ありがとうございました」と返って来た声に笑顔で)はい。ありがとう。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

年が近い所でDさん、(会場からの明るい笑いの中)返してください。

#### 《パネリスト D》

(立った瞬間から涙ぐみながら、語り始めると涙があふれて言葉に詰まりながら)涙流しながら話していて、私は感動しました。…どうしようかって、ここで思っとるエネルギーがあるのは、忘れんといほしいし、いや、忘れることとかはないと思うけど、…こういう姿勢を周りのみんなが聞いてくれればいいなあって…。

(フロアの高校生の質問に共に胸をいっばいにしながら)本気で思っとることって、絶対に伝わるし…、だって、悩んどることって…、そこにウソはないし、…伝える方法は…いっばいあると思う。…やっぱり、友だちとかに否定とかされたら、若いし、少数派の意見ってやっぱり言いづらいと思うんよ。

…なんか…。最初は1人だけに話してみるとか、…自分の思っとることを誰かに伝えるだけでも、ちょっと自分が楽になると思うし、それ聞いて、その話を聞いてくれた子とかは、絶対もう一度話を聞いてくれると思うけん、…さっきもどなたかおっしゃっていましたが…(フロア前列の女性に笑顔に向け、確認するようなしぐさの中で)佐伯さんだったかな。「交流すれば差別なんて何でもない」という言葉に、(涙ぐみながら)心を打たれました。

語らないとわからないことってあると思うし、語られてくる言葉で人が変わっていくっていうか、(涙でとぎれとぎれになりながら)その言葉で、人の輪が生まれていって、続いていって、その人の言葉を聞いて、自分の感じたことをまた声に出して、その声を聞いた人がまた気づいて感じて声に出していって…。そういうのがどンドンつながって、途切れん中から、何か生まれると思うんです。

(笑顔で)なんか、まとまりがなくなっちゃったんですけど、やっぱり、今日この皆さんのお話とか聞いて、私とかは若気のいたりですから、(会場から温かい笑い)教育の場の学校という所だけじゃなくって、常に人権のことを考えていくことを死ぬまでやっていこうとしています。ゴールはどこまでも続いていると思うんで、だから、発信していきたいです。これからも。はい。今日はありがとうございました。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

(質問した高校生に温かいまなざしを送り、しみじみと語りかけるように)本気で聴いたら本気で応えてくれる人がいっばいおるな。ほんまにうれしい世界です。はい。それではいきましょう。

#### 《フロア M》

さっき話をしたA先生の教え子と同級生です。続けて話をしようと思って手を挙げたんですけど、その後に、本当に身につまされる心に響く話を聞いて、取り下げてもらいたいような気持ちになりました。

(会場内爆笑)A先生は会った時から、その時先生は20何歳かだったと思うんですけど、今と全く見た目も印象も変わっていません。本当に熱い心でいろいろなことを教えていただきました。1つ覚えている思い出

が、当時、藍住中学校で同和教育の全国大会(文部省指定同和教育研究発表会)がありまして、その時に語り合いをすること、クラスのみんなが自分を見つめて、自分で発表内容を考えてやっていました。

その中で、発表会の原稿を練習する子もいました。私は帰って遊びたかったので帰りましたが、A先生は家まで追いかけてきました。(会場に明るい笑い)呼び戻されて練習しました。(笑い)そういうこともあって、一生懸命やった結果、3年生の1年間だけだったんですけど、真剣に勉強させてもらいました。

そして、今日参加させてもらって、自分の不勉強さというの、すごく身につまされているところなんです。その1年間に、10代の時に学んだことというのは、発表された人もそうですが、若い時に学ぶということは大事だと思います。大人になってから学ぶことは、中学で学ぶこととは全然違うと思います。やはりこういう、人権教育を含めて同和教育は、若い時にしっかりと正しい知識というものを先生方が伝えていただけたら、子どもたちがその先をつなげていってくれると感じました。

私が同和教育をやってきて思ったことは、知ることの大切さです。やはり、知識のない中で間違った差別というのは起こると思いますので、私は本当にそんなことを言えるほど知っているわけではありませんが、1年間でも、真剣に関わってくれる先生に教えてもらったということで、きちんと勉強した方が違うという自覚を持っております。その気持ちを持って今まで生きてきて、いいこともありましたし、ああ、勉強になったぞということもありました。

先日、同窓会の飲み会で「8月2日に鳴門市でフォーラムをやるからな」と聞かされて、その時に、しびれが切れて、お酒が入っていて立とうとして足をくじきまして、(会場に明るい笑いが続く中で)今日どうしようかなと思っていたら、先生から昨日電話がかかって来まして、「明日は来るんやな」と言われたので、(会場内爆笑)来させてもらったんですけど、本当に来てよかったなと思っています。ありがとうございました。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

(うれしそうに)ありがとうございました。だいぶ時間も来ておりますので、後2人くらいどうでしょうか。はい。じゃあ、最後お願いします。

#### 《フロア N》

すみません、神奈川県藤沢から来ました。ここに来させてもらったのは4回目です。始まる前に、仲間に「今日は発言しない」と言っていたんですけど、(照れくさそうに)なんか、ちょっと言いたくなってしまいました…。

神奈川の自分の周りから見ているとですね、まずびっくりしたのが、これだけの大人の前で、中学生、高校生が自分の思いを伝えていくというのは、すごいなと思いました。今まで気がつかなかったんですけど、先生たちが自分の生徒を前にして、いわゆる本音を語っていくというのを、あるんですけど、私はあまり知らなくて、これもすごいなと思いました。

もう1つは、人権問題、特に同和教育を扱った研修というのは、指導者養成研修というのは神奈川県でもしますが、同和教育を扱った研修というのは、どんどんどんどん少なくなってしまっていて、指導者養成ではない人権問題の研修会などは、もちろん他の人権問題も関わるので、そちらの方に移行してきてしまっているんだけど、さっき、どなたか言われたけど、「正しく知る」ということをきちんと伝えていかないと、正直不安を感じます。

きちんと、子どもたちにも、もちろん大人も伝えてもらわないと、何かがあった時に判断できる基準を持てるかなということを感じました。A先生を中心に人のつながりがすごいなと思いました。私も参加4回目を迎える中で、人の成長ぶりを一緒に聞けてうれしくなります。また来年も来たいと思いますので、よろしくお願いします。(拍手)

## 《コーディネーター A》

(笑顔で)ありがとうございました。あっという間の2時間半が経過しました。後ろの「テレビ鳴門」の撮影再開OKです。(金髪に染め、両胸に大きなハートのパッチワークのような模様の服を着て、きっちりと化粧されたパネリストのDさんをうれしそうに見つめながら)

ちょっとね、久しぶりにあってすごいなって思います。(コーディネーターの愛情いっぱい雰囲気を楽しむ姿に、会場いっぱいに明るい笑いが溢れる)やっぱり、東京はこうかなと思います。

(一言一言に起こる笑いの中で)大学でミュージカルをやっています。中学時代にミュージカルをしてもらったことがあります。やっぱり感動します。表現する姿は美しいです。かっこええです。憧れます。ああいふふうに歌を歌えたらいいなって思います。私も飲んだら歌うんですけどね。(会場から笑い)本当に「時代おくれ」です。

(空気をもとに戻し、会場に力強く問いかけるように)でもね、安心して自分が出せる。安心して自分を表現できる。そんな地域社会でありたいし、職場でありたいし、学校でありたいし、教室でありたいと思います。

同じ大学の仲間が1人来ています。Oさんと言います。一緒に演劇を学んでいる、ミュージカルと一緒に学んできた仲間がおるから、ここでちょっとアカペラでやってくれますから。(笑いの中に大きな拍手が起こり、その拍手に迎えられるように、Oさんが恥ずかしそうに舞台上がり、Dさんと相談をしばらくし、歌う曲を決める)

## 《コーディネーター A》

(Dさんに)曲の内容を少し説明してください。

## 《パネリスト D》

(はずかしそうに)はい。私たちはミュージカルを勉強しているんですけど、これから歌う曲は、『オズの魔法使い』をもとにしたミュージカルで、白い魔女と、生まれながらにして肌が緑色の悪者扱いされている、2人の「魔女の歌」を歌います。(2人が歌の準備が整うと、会場に大きな拍手が起こり、2人による息の合った透き通るようなハーモニーが響き渡る。)

### ♪ 私の大事な宝物

私の心を開いた 大空へはばたいた  
あなたの勇気を忘れない  
小舟をいざなう風のように  
花の種運ぶ鳥のように  
私を変えてくれたの 忘れない  
あなたのこと  
これっきり もう会えなくても  
心は決して離れない  
あなたの明るい笑顔で 私の心を溶かした  
もう 私の夢をかなえて  
あなたならきっとできるはず  
せせらぎを渡す岩のように  
砂の山流す波のように

あなたは私の中で 忘れない  
忘れない あなたのこと  
これまでいつも 私たち  
ケンカばかりしていた  
素直になれなかったの  
今は懐かしい思いで  
小舟をいざなう風のように 岩のように  
花の種飛ばす 風のように  
あなたは私の中で 永遠に輝き続ける  
いつまでも いつまでも 忘れない  
あなたを ずっと♪ (会場に大きな拍手)

#### 《フロア O》

(コーディネーターから、笑顔で発言を促されて、恥ずかしそうにしながらも笑顔いっぱい)すみません、急に出てきて歌い出して何者って感じなんですけど。私もA先生の教え子で、Dちゃんと同級生で、小学校・中学校・高校・大学とDちゃんとずっと一緒です。同じ道を目指して頑張っています。きっと、私はDちゃんと一緒でなかったら、ここまで人権学習をしなかっただろうなと思います。

(きっぱりと)やっぱり周りの影響が、周りに頑張っている人とかがいたら、すごく自分も変わっていくというか、まだまだなんですけど、自分のコンプレックスとか、何もかも全部さらけ出せるような、自分の恥ずかしいところが全部ないような、(ニコニコしながら元気よく)周りから見ていて輝かしい大人になっていきたいなと思います。終わります。はい。急に出てきてすみませんでした。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

ありがとうございます。最期にパネリストの3人に一言ずつ話してもらって閉めていただきます。(Dさんに)いこうか。

#### 《パネリスト D》

今日はこんな場で話をさせていただいて、本当に感謝しています。皆さんの声も聞けて、すごく心が震えました。さっきも話したんですけど、一生この人権のことをずっと考えていきたいと思っています。これからも頑張っていきますので、皆さんも頑張りましょう。ありがとうございました。(照れくさそうないっぱいの笑顔に、会場に明るい笑いが溢れるとともに大きな拍手)

#### 《パネリスト B》

私も、最初子どものことがきっかけでしたが、ずっと続けてこられたのは関わってくださった先生方や周囲の方々のおかげだと思っています。そして、長く続けていくということが、自分が変わることができたし、子どもたちにも寄り添っているだけなんですけど、私も、自分が変わったように、子どもたちも何かあった時に、未来塾があれば相談できたりとか、寄り添える場所があるということがすこしでも心の中にあり、相談してくれたりとか、そして、うれしいことがあった時に話してくれたりとか、そういうことができる場を長く続けていきたいなと思います。(拍手)

#### 《パネリスト C》

僕は、1か月前のムカデの話をしようか…。聞きたい人は個人的に聞きに来てください。(会場から爆笑)

きりないのでやめます。差別を見過ごしてしまっているところに「ひとごと」っていう部分があると思うんですけど、もう1つに、「違いを認められていない」という部分があると思うんですが、違いが認められないから、変わっているところを攻撃してしまうという、それが差別やいじめになってしまうという部分なんですけど。

それは、必ずしも、差別やいじめという嫌な部分だけではなくに、日常生活の中にも出てきてしまっているエピソードをひとつ紹介させていただきます。高校生が書いた感想文なんですけど、その女の子のお父さんが、もう余命数か月という状態なんです。入院しています。そのお父さんに、娘は「ありがとう」という言葉を言いたいんだけど、言えないんです。恥ずかしくて。なぜ恥ずかしいかという、普段から自分の本音を語るという部分を訓練していない影響だと思います。

そういう、「ありがとう」「好きよ」というような言葉が普通に出てくる環境を目指さなければ、感謝も出ない。攻撃的になる。差別になる。いじめになる。そういう世の中になってしまうのではないかなと思います。やっぱり、人と人として違いを認める。「ひとごと」から「わがこと」へ。そして、語り合いの訓練をする。そういうことが大切だなと今日は思いました。ありがとうございました。(拍手)

### 《コーディネーター A》

ありがとうございました。皆さんのまなざしに力をいただきます。聞く力というのは、人間を思いっきり表現させます。そんな日常をつくっていきたいと思います。家族の中で語り、職場の中で語り、出会えたことに感謝する。感謝とよろこびの中で生きる一日一日をつくっていきたいと思います。

人権教育のよろこびは、出会いとつながりです。出会えたよろこび。心が通ったよろこび。交流の中で世界が変わります。価値観が変わります。私を生きて良かった。そんな一日一日を過ごしていきたいと思いません。幸せは私たちの心が決めていきます。誇りうる人生を共に生きていきたいと思いません。

語っていただいた皆さん、一生懸命聞いていただいた皆さん、本当に素敵なおメッセージをくれた3人のパネリスト。歌もよかったです。(会場に向かってニコニコと)最後にまさか歌が聞けるとは思わなかったでしょう。感謝の気持ちを込めて、大きな拍手をして終わりたいと思います。本当にありがとうございました。以上でフォーラムを終わらせていただきます。

終了

### 《参加者の意見・感想》

◎毎年パネラーから、自分が歩んできた人生を語る姿は、会場に参加した人たちの心に響いたものと思われます。今年もA先生の教え子たちをはじめ、県内はもちろん県外にも多くの人達が育っています。にもかかわらず、今もなお現実の社会の中にはいろいろな差別が残っています。有意義な学習会ではありますが、学校教育、社会教育の中で、半世紀に及ぶ同和教育・人権教育の取り組みが、遅々として進んでいないことに悲しみと怒りを覚えます。

◎会場の雰囲気がとてもいい。自分を否定せず、否定もされず、自然にしていることができて、とてもうれしい。

◎人権教育の大切さをいろいろな方から話を聞くことができ、改めて、「ひとごと」から「わがこと」の意見が心の中で実感できました。語る大切さを知りました。あたたかい、人間の素直な気持ちがあふれる会に参加でき感謝しています。

◎生涯学習や学校教育の中での人権教育は、その場・その時は輝いていますが、日常生活の場(職場、地域、学校、家庭、普通の交流時)では、人権・同和教育はタブーに近いものを感じます。それを乗り越えるにはどうすればよいか。「いじめ」＝「差別」の結果、死んでからでは遅いと思います。

- ◎一人ひとりが自分の言葉で自分の思いを語っている所にそれぞれの熱い思いを感じました。私も自分の言葉で語るということを常に心がけようと思います。正直な生の言葉の力は強く心に響くと思っています。
- ◎「ひとごと」から「わがこと」の意味がわかった。同和問題に関わらずいじめにも通じるものだった。
- ◎今まで「きれいごと」で人権学習や研修をしてきたことに改めて気づかされました。本音の中で見えてくることも多いと思う。いつもの人権研修よりは楽しい会ではなかったかなと感じた会でした。
- ◎人間は部落だからとかの問題ではないと思う。部落の人ではなくてもこの人と思う。人間はどこにでもいる。Cさんの話はわかりやすくよかったです。部落ではない人も生きていくのにいろいろと苦しみ悩み生きています。
- ◎貴重な話を聞かせてもらいました。差別をしているつもりはなくても何気ない一言や行動が差別につながっているんだと改めて思いました。一人ひとりが人権意識を持つことがとても大切なんだと改めて気付かされました。ありがとうございました。
- ◎本当のことが見える・言える力をつけていきたいと思っています。ありがとうございました。マイクの質を上げてくれると言葉がしっかり聞き取れてよかったと思います。
- ◎本気で思っていれば伝わる。ウソがないから伝わる。素敵なお話を頂きました。ありがとうございました。私にできることを見つけます。
- ◎自分ではわかっているつもりだが、フォーラムに参加して、改めて人権教育の必要性を感じました。
- ◎自分のつらいこと、あまり知られたくないことを話すためには、周りにいる人達に対する信頼感がとても大切だと思った。この人達なら自分のことを受け止めてくれる、理解してくれるという思いがないと話せないと思う。そういう仲間をつくるのができたらすばらしいと思う。その手助けができるような人間、そういう仲間がいる人間になりたいと思う。
- ◎一生懸命自分のことを語り、行っていること、感動しました。まだまだ自分は勉強です。
- ◎学校や社会であったこと(いじめや虐待)を人に話せる社会になってほしい。その日の出来事を全て話せる家庭(親)であるのか、そんな家庭教育が必要で良いのかと思います。自分のことを話してくれた いい勉強になりました。人ごとをわがこととして考えられる人でありたいと思います。
- ◎パネラーの方は、参加者の生の声を聞いて大変良かったと思います。今度、またこういう機会があれば、私も発言したいと思います。※ウィキッドよかったです
- ◎パネリストの方々のお話もたいへんすばらしいものがあり、考えさせられることが多かったと思います。また、それ以上に会の後に実施された様々な方の自由な発言、発表にはとても身につまされることも多く、感動しました。「生の声」の力強さには何にもかえることのできないものだと感じました。
- ◎このフォーラムで聞いたことや感じたことを自分のまわりの人に自分の言葉で語ることが大切だと感じた。しあわせは自分の心がきめる。
- ◎「あることをないことにしない」という言葉が一番心に残っています。人とのつながりがすごく大事だと思いました。私は自分の思いをうまく伝えることが苦手ですが、自分の言葉で多くの人と語り合いたいなと思いました。
- ◎いじめの問題は大きな社会的問題であり、関わった人が「ひとごと」と思い、表面的に取り繕い、学校側も教育委員会も隠してきたように思われる。本日の人権フォーラムがとても役立った。Dさんとその友人の今後の活動を期待しています。頑張ってください。
- ◎声をあげている、そういう声が拾える人になりたいと思いました。また、そういう人間関係を作りたいと思いました。みなさんの話を聞いていて、心が開かれていく自分がよく分かりました。
- ◎幅広い年齢層の前でお話すること難しかったとおもいます。おつかれさまでした。さまざまな話が聞けて大変興味深かったです。熱の入った講演ありがとうございました。
- ◎「人と人とのつながり」「言葉の力」について考えさせられました。

◎テーマにある「ひとごとからわがことへ」にあるように、自分の中で、また、学校の教育の中で「差別はいけない。差別をしない」ときれいごとで、ひとごとで終わらせていることを反省した。また、「あることをないことにしない」という言葉を聞き、ハッとした。あたり前のことなのに…、なかなかできていない自分がいることに、自分のことでなくひとごとだからないことにしているのだろう。自分のことであるなら、ないことにできなかったと思う。今後は時間がなくても、あまり内容がなくても少しでも「わがこととして、あることをあることとしてとらえられる」ようにするためにはどういうアプローチがよいか考え、自分で考えていきたいと思います。簡単なことのように、とても難しいことかもしれませんが、一歩ずつ。高校生のつらい思いを聞き、差別の根強さと自分も含めて、教師の力のなさを感じ、情けなく思いました。高校生の方、ごめんなさい、つらい思いをさせて。一人でもそんな思いをする生徒を減らしていくよう力不足ですが、全力で取り組んでいきます。

◎人としてがんばっている姿勢に勇気をもらいました。涙が出そうになる話を生徒に伝えることができる教師になりたいと思います。

◎自分自身と必死にむきあってしゃべっていたいろんな人たちの言葉が身にしみ入りました。今の自分はどれだけ自分自身と向き合っているのかと思うと、恥ずかしくなりました。今は香川で住んで教師をしています。ふるさと徳島です。ふるさとへの思いが高まった1日でした。また来ます。

◎本気で話をできる環境をつくるために、自分が自分らしさを出すことが大切だと思った。小さな関係の中で本気で話し合っていないと人権教育とか道徳などを教えていくことは、できないと感じた。また、フォーラム後半の一人ひとりの立場からの話はとても有意義だった。「ひとごと」から「わがこと」にとらえていこうと思った。Aさんのように人の話をひきだせるような自分になろうと感じた。

◎Dさんが話して下さった話の中で、『語り合いの場』という言葉ができたとき、ああ私の学校でも、その場を持ってほしかったな、持ってほしいなと思いました。それでも私一人がお願いしても、恐らく持ってもらうことは不可能なので、本当に残念です。そして改めて友達、家族といった、身近で大切な存在が、何よりワガコトへつながるきっかけになると思いました。私はまだヒトゴト側にいると思います。わがことに変えることがとても大きなかべのように思います。それでも少しずつ周りの人に自己を伝えることがわがことにつながるようなら、頑張ってみようと思います。そしてこのフォーラムに参加して、普段何でもないような顔でいる人々がどれだけ悩みを抱えているかが分かりました。このようなフォーラムが開かれ続けていることをありがたく感じます。最後にミュージカルのアカペラすごくきれいでした。お二方頑張っています。応援しています!

◎はじめてこのフォーラムを聞いてみて、みなさん一人ひとり思いを語ってくれて、すごく、心に残りました。私も友達や先生方など、身近な人にありのままのことを話そうと思いました。

◎Cさんのお話は、自分が中学生の時に聞いたことがありました。中学生の時は、すごくわかりやすく話してくださったのですが、今回も素晴らしい話が聞けてよかったです。自分の話を聞いてくれる人がいるって、すごく幸せなことなんだなと思った。

◎昨年に続いての参加となりました。昨年は昨年で、みなさんの思いにふれて、力をもらいましたが、今年はまたちがう感じで、元気になりました。ひとつはそれぞれの話の中に、ああ、あの時のことだと思えるものがあって確かに繋がっていると実感できました。それから、フロアからの発言が多くて、中身もいろいろあって、いろいろな立場の人達がつながっている(つながろうとしている)ということがすばらしいと思いました。つながろうとする気持ちをずっと持っていたいと思います。(それがいざという時の自分の支えになると思います。)

◎若い人の純粋な気持ち久々に聞いたなあ。自分のところをかくすことに慣れてしまっているなと思う。「あることをないことにして生きている」のかなあ。生きていきにくい世の中で、自分の思いを本音で語れる世界を持っている人をうらやましく思う。我が子にもこんな世界があるといいのにと思う。

◎パネリストだけでなく、フロアの人々も自分を語る事ができ、すごいと思った。その自信、勇気はどこから出るのか？ 刺激をもらった会であった。来年度も参加したい。

◎A先生には、昨年屋島中に来校いただき、3年生と思いを語る会を行なっていただきました。同和地区の問題だけでなく、障害者差別、家族の病気、人種差別、父子(母子)家庭の悩みなど、たくさんの生徒が弱い立場で辛い思いをしています。私も母子家庭で育ち、劣等感を持っていた時期もあります。それぞれが抱えている問題が「眼鏡」のようになればと思います。私も近視ですが、眼鏡をかけていることに劣等感をもっていないし、周囲の人もそれに対して差別をしていないと思います。多少不便なだけです。そんな当たり前で安心して過ごせられる学校(社会)にしたい。

◎何もかも「人事」にしないで、自分から解決しようと思いました。人と人がつながることはとても大切だということが分かりました。

◎A先生やパネリストの皆様、会場の皆様の一と言ひと言にたくさん心をゆさぶられました。ありがとうございました。

◎コーディネーター、パネリスト4人4様の体験や訴えが自己の言葉で語られていて、心にひびくものがありました。人が人を差別したり、いじめることをどうやればなくすことができるのか、心の闇を照らしていくことができるのか、皆が当事者意識を持って考えていかないと解決しないんでしょうね。孤独死や自殺や自殺を減らすために、人権を尊重する教育、環境づくりを大切にしないといけないと思います。

◎いつも、みなさんから「元気」をもらいます！明日から、いえ、また今日からがんばります！！ありがとうございました。

◎先月、A先生の講演を聞く機会があり、もう一度お話を聞きたいと思い、今日参加させてもらった。自分の思いを語るということの大切さを改めて感じた。思いを出さなければ分からない、ということ。担任している子どもたちに伝えていきたい。

◎今年から、初めて人権問題の学習会などに参加させてもらっています。勉強させていただきながら、先日自分の中にある差別意識に気付かされることがありました。まさに、「ひとごと」から「わがこと」に感じられた瞬間でした。今回も、様々な立場の人の思いを聞かせていただいて、自分自身を見つめなおすことができました。

◎人権教育の灯を消してはいけないなと思います。高校生の女の子の語りをきいて、ずいぶん苦しい思いさせている、ということにまず心が痛みます。私は人権教育を通じて、今、自分の立っている所や、まわりの人たちの足元に広がる暗い海にも、灯があると信じて泳いでいくことを教えてもらいました。人権教育は、光です。彼女にも、光を目指していっしょに泳ぐ教師が必要だと思いました。

◎「人権地域フォーラム」というタイトルから想像できない、親近感を感じる会でした。発表も次々出て大変考えさせられ、また、課題を認識できるものでした。ありがとうございました。

◎私はA先生の26年前の生徒です。その事が私の誇りです。26年前の語り合える空間を思い出し、胸がいっぱいになりました。なぜかタイムスリップしたようでした。なんでも話せる空間がなければ同和問題は語れません。その土台作りをまずしてからだと思います。26年たった今、親となり、親として子どもに何をすべきか、そう思った時、人と人をつながれる人間関係の作り方、そのお手本になれる様なそんな人とのつながりを親である私が実行する事だと思ってます。人生一生勉強、そういうつながりを大切にして生きていきます。

◎今日、聞いたこと考えたこと 感じたこと 早速、9月から子ども達に伝えていきます。そして、もっと自分の「わがこと」を磨いていきます。今日、来てよかった！

◎米子から来させていただいてよかったです。まず、自分が自分を語れるようになること。まわりの人が、自分を語ってもいい雰囲気をつくっていただけること。そこから始めます。ありがとうございました。また、米子にもぜひいらしてください！！

◎改めて人権のことを考え直した。ひとごとからわがことに考えていけば、差別はなくなっていくと思った。思うだけでなく、行動にうつすことが大切だ。

◎「ひとごと」から「わがこと」に変えることは本当に大切だと感じた。話すことで自分が変わるんだと思った。

◎生の体験談を聞き、「わがこと」への考えを身近にしていくことが大切だと気付いた。また、相手に歩み寄りすることの心の豊かさが今後の課題である。

◎2回目の参加です。いろんな世代の人と、同じ空間で語り合えるこの場が心地良いです。また、参加したいと思います。

◎今回もとても楽しく、心温まる。そして、胸に響くお話がきけて「ああ来てよかった！」と思うことができました。ありがとうございました！

◎フォーラムに参加することができ、とてもよかったです。自分と重なる部分もあり、「ひとごと」から「わがこと」へということがよく分かりました。

◎私の住む地域には、昔から部落と呼ばれている地域があります。私自身は全く気にしたことはなかったのですが、当時の大人(私の父母世代)はそのことを常に気にしていました。学校の授業でも「表向きの授業」になっていたことを記憶しています。今、私の子どもは問題は違えど、不登校という状態になっています。いじめ等の問題が背後にあると思えるのは私だけでしょうか。子どもの心の叫びに気づかない親が多い中、私もその一人だと反省しています。しかし、そのような状態で人権教育に取り組んでも、やはり、「表向きの教育」になるのではないのでしょうか？ 本来の子どもたちの笑顔、大人たちの横のつながり、地域のつながりを結ぶには、「表向き」から「本質」に変わる必要があるのではと思います。当然、私自身も「表向き」から「本質」に変わる必要があると思っています。

◎雰囲気がいいと思います。みんなが本音で語れば(そういう問題意識を持っている人が集まっていると思うので)がよかったと思います。また、次回も参加したいと思います。

◎語ることの大切さを感じました。自分のつらい思いを話せてそれを聞いてくれる仲間がいるっていうことは本当に素敵なことです。そういう家族・職場・学級を作っていきたいです。

◎今回は特に良かった。心の奥底から本当のことを伝える社会になればいいのにと、信頼できる人間関係があれば世の中はうまくいくのにと感じた。もっと多くの人に聞いてほしいと思ったことです。

◎あることをなかったことにしない、と言う言葉に共感しました。自分の言葉を語る大切さを学びました。

◎自分の言葉でしゃべることを大切さを改めて感じた。同時に自分の言葉で話せる子どもを育てていくという教師としての使命を改めて感じた。昔、全国大会でA先生のお話を聞かせていただいたことを懐かしく思い出した。人と人のつながりをつくっていきける先生の力が、今日のフォーラムでも息づいていた。「あることをないことにしない」という言葉が心に残った。子どもたちにもぜひ伝えたいことばです。どうもありがとうございました。

◎今日、一番心に残ったのは、「あることをないことにしない」という言葉です。生活の中で、自分自身も「あることをないことにしている」ところがあることに気づきました。ここからがスタートのように感じました。ありがとうございました。

◎自分を語ることで何かがかわっていく。この会に参加させていただくたびに、他の会では経験することのない思いを感じます。真に迫った人権問題を学ぶことができます。ありがとうございました。

◎本音での会話の大切さを痛感しました。体験発表を取り入れたトークタイムが大変感心した。

◎初めての参加です。どんな内容かと興味を持って話を聞きました。パネラーの3者それぞれの立場の話はどれも共感を呼ぶものでした。自分に何ができるだろうということですか。教員として、日々接している生徒にあたたかいまなざしで関わっていきたい。人権同和問題についてはその授業のみならず、毎日の場面でも取り組みたいです。ミュージカルありがとうございました。これを機に応援していきたい。

◎つないでいく友達→ありのままの自分→自分らしく生きる→「ひとごと」から「わがこと」へ。まさにそのとおりだと思いました。本当の人の思いは人をつき動かすものだと強く感じました。ありがとうございました。

◎「あることをないことにしない」この言葉が胸にとまりました。今現在の社会に大きく伝えて欲しいです。一人ひとりがこの思いを強く持つことで世の中が変わると思います。私自身も強くこの思いを持って生きていこうと思います。

◎初めて参加しました。教師として、まずは自分の心を見つめ、向き合わないといけないと思いました。人権教育って、あったかい気持ちになる教育なんだなあ…と今日、参加して実感しました。ありがとうございました。

◎3人のパネリストの方のすばらしいお話、フロアとその3人から本音を引き出しながら素敵なコーディネートしてくれたA先生、どうもありがとうございました。「今日の自分より明日の自分が好き」のA先生の言葉を胸に生きていこうと思いました。

◎ありのままの自分を語れる場というのは、本当に居心地のいい場になっていくんだろかなと、今日の話聞いて思いました。そして、ありのままの自分を語っていく事で、相手とよりつながっていけるのだなと思いました。こういう場って大事な、必要だなと思いました。ありがとうございました。

◎それぞれの立場で同和問題に取り組む姿を聞かせていただきました。人権感覚を高めていくために、今日のテーマのように「ひとごと」として問題をとらえるのではなく、「自分のこと」として感じ取れる感覚を磨きたいと思いました。特に、語り合うことの大切さを感じました。自分をさらけ出す姿に、聞く人は本気で聞けるようになる。そのことが、人と人のつながりになっていくんだなと思いました。

◎多くの人々が生き生き自分の思いを語る姿にすごいと思いました。でも、つらい思いや差別されたことは語れるけれど、自分の汚い部分はなかなか語れないもの。それにどこか心が荒んでいるから、つらい思いは逆に心にとめておきたいと思う自分もあります。話さないと分からないし、その結果で変わっていくということもわかりますが…。話をきいて涙は出ます。でも、涙を流すだけで、私は何もできないし、どこかで冷めてしまっているところもあります。人には差別心があり、私の心はそれでいっぱいなところもあります。正しい知識を得ることは大切だと思うから、教師はそれを生徒に伝えていく義務があります。でも私は差別されている人の本当の気持ちはわからない。だから、それを伝え、本音を語り合いたいとは思っています。そうすることにより、生徒も本音が語れるようになると信じているから。

◎「ひとごと」から「わがこと」へ。心にしみる言葉をこれからの私の人生の道しるべとかキーワードになりました。今日はありがとうございました。このフォーラムに参加して本当に生きる力をあらためて、感じました。

◎「ひとごと」から「わがこと」に。自分に何が出来るか考えました。今まで自分のことしか考えてなかったと思います。周りには、本当に苦しい思いを抱えて生活している人がたくさんいます。それをまず知ることと、自分の周りにはいる人は、苦しい思いを言える場所があるように大切にしておこうと思います。周りの人を大切にします。私は大勢の人の前で話すのは苦手です。手を挙げて発表できる人はとても勇気がある人だなあと思いました。本当すごいです。

◎例年にたがわず、熱い3時間をありがとうございました。3名のパネラーの方にも、とてもうなづけるお話でした。少し、人権・同和教育から離れた生活をしていたので、目の覚める思いでした。明日からの生活の中で、また1から考えなおしていこうと思うことがいくつか見つかりました。「腹を割って本音で語り合うこと」大切に、わたしも実践していこうと思いました。

◎本気の心で語ると人は聞いてくれるということをこの会でいつも思います。本気か本気でないかは、言葉を通じてわかるし、心の中が見えます。A先生も言っていましたが「表現する姿はカッコいいし、美しい」と思います。安心できることで人は変えられるし、信頼することの意味がはじめて分かると感じました。

◎このフォーラムに参加し、自分はどうかの？と考えさせられました。今回は自分のことを語る勇気はありませんでしたが、たくさん考え、心がドキッとすることがいくつもありました。ありがとうございました。自分を見つめることは普段、自分が心の奥底にかくしているみにくいところも見ないといけないので、むずかしいなと思ったけれど、これを乗り越えていけなのだと思います。

◎A先生の話、Cさんの話をじっくり聞くことができ、とても気持ちがあたたかく、元気になりました。(昨年、中学性と語る会で聞いて以来で、うれしいです。語りにつながっていく、その心地よさを感じました。未来塾のBさんの話の中での「学習を自分のためにしている」という思い、そこまでに至る気持ちのゆれを聞き、涙が出そうになりました。語る、ということ、それを受け入れる人の気持ちで、どんどん語りが深くなるんだなあ、子ども達はきっと、そんな感覚を知り、語っていけるようになるんだなあと感じました。また参加したいと思います。

◎パネリストの方の心からの思いや願いが聞けて、とてもよかった。「ないこと」にするのではなく、みんなで解決していくために、自分が何ができるかを考えていくこと、それが人と人とのつながりを作り、絆を深めていくことにつながるのだと感じました。また来年も参加したいと思います。ありがとうございました。

◎体験、考えなど生の声が聞けて、初めて気づくことが多くありました。身近なようで、どこか他人行儀になってしまう同和問題。自分も「たにんごと」だと思っている私に気付かされました。

◎今回は本当にありがとうございました。久しぶりに人権・同和教育の研修会に参加させていただきました。コーディネーターのA先生をはじめ、パネリストや参加者の方々から、元気をいただきました。今日からの自分自身の成長の参考にさせていただきたいと思います。まず、「ありがとう」を家族に言いたいと思います。(最近、言っていない自分に気が付きました)

◎「あることをないことにしてないか?」「自分の本音を語れているか?」「生徒たちに、伝えたい言葉を伝えられる学級を作れているか?」すごく考えさせられました。まだまだできていない事の方が多かったです。「語ることの大切さ」を生徒たちに伝えていけるように、まずは語れる自分、伝えられる自分になりたいと思います。また、来たいです。ありがとうございました。

◎改めて、自分の心の中にある思いを振り返ることができました。また、たくさんの熱い思いを持った方々と出会いつながることができて、とても充実した時間でした。本当にありがとうございました。

◎弱い自分を解放することによって、人が寄ってきてくれる。それによって自分が支えられる。それを声を大にして教えてくださったパネラーの方に感謝します。ありがとうございました。私にも弱いところがありますので、それを語るができるように元気になりたいと思います。

◎友達を信じて、やっていきたい。同和問題についてしっかり考えていきたい。今の自分を変えていきたい。あることを無いことにしないようにしたい。相談できる人を自分で見つけてやっていきたいです。自分の我が子のために、相談できる人を増やす。たくさんの人が見守っているということ、自分の思いを自分の言葉で発表していた事。自分を受け止めてくれる場所。自分が変わる、怖がっている自分。あることを無いことにしない。差別ダメ、人権を大切に。

◎このフォーラムにくるのは2回目です。今回の話は、自分自身のことを相手に伝えありのままの話をできる仲間を作るということが印象的でした。私にも相談できる仲間がいます。仲間がいるだけで安心できることがいいことだと私は思います。発表をすることはできなかったけどたくさんの人たちの話が聞けてよかったです。

◎最初は「めんどくさい」とか思っていました。でも、今日初めて来てみて、元気をもらったり、心の中のもやもやがとれていきました。来てよかったです。皆さんの熱い話を聞いて、よかったなあと思いました。

◎いろいろな人の意見や体験談を聞いてよかったと思います。初めてきたけど、とても楽しめました。

◎『『ひとごと』から『わがこと』へ』いい言葉だと思いました。「あることをないことにしない」という言葉を胸にがんばります。

◎自分自身の人権感覚や知識に不安はあるが、「本音で語り合う仲間づくり」の力になりたいし、本音で語り合う仲間を増やしていくことができればと思う。教員という立場の責任感を忘れず、一生、自分を高められるように、子ども達が幸せになれるように、頑張っていこうと改めて感じた。ありがとうございました。

◎同年代の方が話してくれ、すごく身近なことに感じた。いろいろな経験から人権ということにつながると思った。「ひとごと」でないというのには、なかなか気づかなく、生の声を聞く機会、伝える機会が少なく、ひとごとになってしまうのだと感じた。カジュアルに話せる場ができるといいなと改めて思った。同和問題は、私も小学生の頃、本を通してしか知らず、初めて、生の声を聞くことができた。本だけではわかりにくく、はっきり理解できていなかったと思う。「同和地区の人とは結婚できない」というのは、よく聞き、当たり前のように感じていた。解放のために、たくさん活動をしているのも初めて知った。こういう機会があり、参加できてよかった。私も、何かできることはあるのではないか。同じ人間なのに、地区に生まれただけで、「うしろめたい気持ち」があるというのは、おかしい。「あることをないことにしない」これは、人権においても、生活においても大切にしようと思った。

生まれた地域だけではなく、学校、学歴などでも差別があり、自分はそんな場面に遭遇したことがなく、今まで友達と幸せだなと話した事があった。それから、大学2年生の夏、3つ年上の彼氏ができた。彼氏と付き合い、3年が経ち、卒業して数ヶ月たち、結婚しようとなった。でも、地域が部落なので、ダメになった。今まで体験したことのない、どうしたらいいかわからない気持ちになった。今日、ここに来て、少し思い出した。

あの時、両親には何も言えなかったし、自分も同和地区の人と結婚するとか、ありえないことだと思っていた。友達に話をしても「両親の言うとおりにやけん、やめてよかったと思うよ」や「今は幸せでも子どもイジメられたら、つらいよ」など言われて、納得した。「まだ、22歳やし、良い人やいっぱいおる」と友達と話して、自分の気持ちをごまかしていた。彼氏ともたくさん話し合っ、付き合いは続いたけれど、ぎくしゃくして、結局別れた。あの時、両親に何か言えていたら、変わっていたのかな。もしかしたら、結婚していたのかな。など思った。

今は、よく分からないけれど、どうなっていたのかを考えたら、勇気がいるけれど、強い気持ちで地域は関係ないと言えていたら、よかったと思った。話さないと、わからないところがたくさんあると実感した。自分も考え方を変えないといけないと改めて思った。